

ja **パッシブ手動車椅子
歩行車取扱説明書**



この取扱説明書は、必ず本製品を使用される方にお渡しください。ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。また、いつでも参照できるよう、大切に保管してください。

rea



Yes, you can.

©2021 Invacare Corporation

無断複写・転載を禁じます。Invacare の書面による許可を得る前に、全体もしくは一部を再配布、複製、修正することは禁じられています。商標は ™ および ® で示されています。すべての商標は、特に指定のない限り、Invacare Corporation またはその関連会社が所有するが、使用を許諾されたものです。

目次

1 概要	5
1.1 はじめに.....	5
1.2 本書で使用されている記号.....	5
1.3 保証について.....	5
1.4 責任制限.....	5
1.5 コンプライアンス.....	5
1.5.1 製品固有の基準.....	5
1.6 耐用年数.....	5
2 本製品を安全にお使いいただくために	6
2.1 安全性について.....	6
2.2 電磁干渉に関する安全情報.....	7
2.3 安全装置.....	7
2.4 製品のラベルと記号.....	8
2.5 電子版の記号.....	8
3 製品の概要	9
3.1 製品の説明.....	9
3.2 用途.....	9
3.3 車椅子の主な部品.....	9
3.4 パーキングブレーキ.....	10
3.5 バックレスト.....	10
3.5.1 張り調節可能なバックレスト「Laguna」の調節.....	10
3.5.2 張り調節可能なバックレストの調節.....	10
3.5.3 バックレストの角度調節.....	10
3.5.4 シートとバックレストを傾ける.....	11
3.6 ハンドグリップ.....	14
3.6.1 取り付けられたハンドグリップの高さの調節.....	14
3.6.2 ハンドグリップの高さの調節.....	15
3.6.3 ハンドグリップの角度調節.....	15
3.7 シート.....	15
3.7.1 シート幅の調節.....	15
3.7.2 シートの奥行調節.....	16
3.7.3 シートクッションの調節.....	16
3.8 レッグレスト.....	16
3.8.1 回転式レッグレスト.....	16
3.8.2 回転式、角度調整可能なレッグレスト.....	16
3.8.3 その他のフットプレートおよびフットレスト.....	18
3.8.4 レッグレスト中央部の角度調節.....	18
3.9 切断者用レッグレスト.....	18
3.9.1 角度、高さ、奥行の調節.....	18
3.10 片手運転.....	18
3.10.1 片手運転の使用.....	18
3.10.2 片手運転で後輪を取り外す.....	19
3.11 転倒防止装置.....	19
3.11.1 転倒防止装置の高さの調節.....	19
3.11.2 転倒防止装置の有効化および無効化.....	20
4 オプション	21
4.1 ヘッドレスト/ネックレスト.....	21
4.1.1 高さ調節.....	21
4.1.2 奥行/角度の調節.....	21
4.2 片麻痺患者用アームレスト.....	21
4.3 外転防止用クッション.....	21
4.4 固定アームで体幹サポート.....	22
4.5 体幹サポート「後ろ回し」.....	23
4.6 側面位置調整パッド(調節可能なバックレストカバーの場合のみ).....	23
4.6.1 側面位置調整パッドの使用.....	23
4.6.2 側面位置調整パッドでの留め具の使用.....	24
4.7 ドリップスタンドの調整.....	24
4.8 チルトスケール.....	24
4.9 テーブル.....	25
4.9.1 テーブルの奥行の調節.....	25
4.9.2 テーブルのロック.....	25
4.9.3 テーブルの回転.....	25
4.9.4 テーブルクッションの追加.....	26
4.9.5 肘用クッションの追加.....	26
4.10 ハーフトレイ.....	26
4.10.1 ハーフトレイの取り付け.....	27
4.10.2 ハーフトレイの調節.....	27
4.10.3 ハーフトレイクッションの追加.....	27
4.11 シート高さ延長プレート.....	27
4.12 パッド付きカーフストラップ.....	28
4.13 フットレスト/フットプレート用カバー.....	28
4.13.1 フットプレートカバーの取り付け.....	28
4.13.2 一体型フットレストへのカバーの取り付け.....	28
4.14 荷物収納ポケットの取り付け.....	28
4.15 段差レバー.....	28
4.16 人工呼吸器用トレイ.....	29
4.17 姿勢ベルト.....	29
4.17.1 配置用姿勢ベルトの組み立て.....	30
4.17.2 姿勢ベルトを前面取付部に組み立てる.....	30
4.17.3 姿勢ベルトを背面取付部に組み立てる.....	31
4.18 ベルト類.....	31
4.18.1 ベルトの取り付け.....	31
5 セットアップ	32
5.1 安全性について.....	32
5.2 納品時の確認.....	32
5.3 組み立て概要.....	32
5.4 バックレストの設置方法.....	32
5.4.1 バックレストの取り付け - ガススプリング.....	32
5.4.2 安全シャックルの取り付け - 電子スプリング.....	32
5.5 ワイヤの配置.....	33
5.5.1 バックレストプレートのワイヤー.....	33
5.5.2 張り調節可能なバックレスト付きのワイヤー.....	33
5.6 アームレストの挿入.....	33
5.7 アームレストの高さ調節.....	34
5.8 アームレスト/サイドレストの奥行調節.....	34
5.9 取り外し可能なキャスターの装着と取り外し(そのように装着可能な場合).....	34
5.10 後輪の取り付け.....	35
5.11 角度調整可能なレッグレスト.....	35
5.12 固定式レッグレスト.....	35
5.13 テーブルの取り付け.....	35
6 車椅子の使い方	36
6.1 一般的な警告事項 - 使用.....	36
6.2 ブレーキ.....	36
6.2.1 使用者が調節できるブレーキの使用.....	36
6.2.2 片手ブレーキの使用.....	36
6.2.3 介助者が調節できるブレーキの使用.....	36
6.3 傾斜/リクライニング機能の使用.....	36
6.4 車椅子の乗り降り.....	37
6.5 車椅子の運転と方向転換.....	38
6.6 階段や段差の昇降.....	38
6.7 階段昇降.....	38
6.8 斜面や坂道の昇り降り.....	38
6.9 座ったときの安定性とバランス.....	39
7 輸送(移動)	41
7.1 安全性について.....	41
7.2 車椅子を持ち上げる方法.....	41
7.3 輸送のための分解.....	41
7.3.1 バックレスト.....	41
7.3.2 ハンドグリップ.....	41
7.3.3 角度調整可能なレッグレスト.....	42
7.3.4 固定式レッグレスト.....	42
7.4 乗員がいない状態での本移動機器の輸送.....	42
7.5 使用者を乗せたまま車椅子を輸送する方法.....	42
8 点検整備	45
8.1 安全性について.....	45
8.2 日々のお手入れ.....	45
8.3 点検整備作業.....	45
8.4 点検整備電子版.....	46
8.5 清掃と除菌.....	46
8.5.1 安全性全般について.....	46
8.5.2 清掃の頻度.....	46
8.5.3 清掃.....	47
8.5.4 洗浄.....	47
8.5.5 除菌.....	47
9 使用後の処置	48
9.1 保管.....	48
9.1.1 保存用電子版.....	48
9.2 廃棄.....	48
9.2.1 使い捨て電子版.....	48
9.3 再調整.....	48

10	トラブルシューティング	49
10.1	安全性について.....	49
10.2	故障の確認と修理.....	50
10.3	故障の確認と修理、電子版.....	50
11	技術データ	52
11.1	一般事項.....	52
11.2	寸法および重量.....	52
11.3	取り外し可能部品の最大重量.....	53
11.4	タイヤ.....	53
11.5	材質.....	54
11.6	環境状態.....	54
11.7	環境状態電子版.....	54
11.8	電子システム — 電動チルトおよびバックレスト 搭載モデル.....	54
11.9	電磁準拠 (EMC).....	55

1 概要

1.1 はじめに

この取扱説明書には、ご使用の製品の取り扱いに関する重要な情報が記載されています。製品を安全にご利用いただくために、取扱説明書をよく読み、安全に関する注意事項に従ってください。

本書は、印刷時点で発売されているすべてのモデルに向けて作成されているため、お客様がご使用中の製品には該当しないセクションが含まれる場合があることにご留意ください。特に明記されている場合を除き、本書の各セクションは製品の全モデルを対象としています。

国内で使用可能なモデル及び設定は、各国固有の販売用文書でご覧いただけます。

Invacare は、別途通知することなく、製品仕様を変更する権利を保有します。

本書をお読みになる前に、最新版であることをご確認ください。最新版の PDF は、Invacare のウェブサイトから入手できます。

印刷版のドキュメントの文字が小さくて読みにくい場合は、ウェブサイトから PDF 版をダウンロードすることをお勧めします。PDF は、画面上で拡大して文字を読みやすくすることができます。

製品の安全に関する通知や製品のリコールなど、製品の詳細については Invacare の担当者へお問い合わせください。住所は本書の末尾に記載していますのでご確認ください。

製品に起因する重大な事故が発生した場合は、製造元とお住まいの国の所轄官庁にお知らせください。

1.2 本書で使用されている記号

本書では、怪我や物的損害の原因となる危険な状況や使い方について警告表示ラベル/マークで示しています。以下に示す警告文の定義をご確認ください。



警告
回避されなければ重傷または死亡を引き起こすおそれのある危険な状況を示しています。



注意
回避されなければ軽傷またはかすり傷を引き起こすおそれのある危険な状況を示しています。



重要
回避されなければ器物損壊を引き起こすおそれのある危険な状況を示しています。



ヒントと推奨事項
役に立つヒント、推奨事項、効果的でトラブルのない使用に関する情報が記載されています。

1.3 保証について

弊社は、一般取引条件に従って製品にメーカー保証を設定しています。

保証に関する申し立ては、製品を購入したご本人からプロバイダーを通してのみ行うことができます。

1.4 責任制限

Invacare は、以下の各項に起因する損傷については責任を負いません。

- 取扱説明書の指示に従わない場合
- 誤った使用方法
- 自然磨耗
- 購入者または第三者による誤った組み立てや設置
- 技術的な変更を行った場合
- 許可なく変更を行った場合/対象外の部品を使用した場合

1.5 コンプライアンス

企業運営において品質を重要視し、ISO 13485 の規定に準拠しています。

この製品は CE マークを特徴としており、医療機器規則 2017/745 クラス I に準拠しています。この製品の発売日は、CE 適合宣言書に記載されています。

当社は、企業が与える地域的および世界的な環境への影響を最小限に抑えるよう継続的に取り組んでいます。

弊社は REACH に準拠する素材と構成部品のみを使用しています。

弊社は、環境に関する現行法 WEEE および RoHS 指令に準拠しています。

1.5.1 製品固有の基準

この車椅子に対して、「EN 12183」に準拠した燃焼性試験などの試験が実施されています。

地域の基準や規制の詳細については、お近くの Invacare の担当者までお問い合わせください。住所は本書の最後に記載していますのでご確認ください。

1.6 耐用年数

本マニュアルに記載されている安全に関する注意事項、点検整備の間隔、および正しい使用方法に従って日常的に使用した場合、本製品の耐用年数は 5 年間と予測されます。実際の耐用年数は、どの程度の頻度と強度で使用したかによって異なる可能性があります。

2 本製品を安全にお使いいただくために

2.1 安全性について

このセクションには、車椅子の使用者および介助者の保護、ならびに安全・安心な車椅子の使用に関する重要な安全性情報が記載されています。



警告!

死亡または重傷の危険性

火災の場合、火元や煙の元から逃げるできない車椅子の乗員は死亡または重篤な怪我の一定のリスクがあります。火がついたマッチ、ライターやたばこは車椅子周辺や布に発火する原因となる可能性があります。

- 車椅子を直火や可燃物の近くで使用したり保管することを避けてください。
- 車椅子を使用中に喫煙をしないでください。



警告!

怪我の危険性

- 車椅子の処方は常に、認定を受けたスタッフか、車椅子のシート調節/位置調節やその他の知識を持つ有資格者が行ってください。



警告!

転倒の危険性

バックレストの位置と比較した車椅子の後輪軸の縦方向の位置は、その安定性に影響を与える可能性があります。

- 前方に配置すると、車椅子の安定性が低下し、後ろへの転倒の危険性が高まりますが、ハンドリムのグリップ位置が改善され、回転半径が短くなるため、操作性が向上します。
- 逆に、後輪軸を後方に動かすと、車椅子はより安定し、傾きに小さくなりますが、操作性は低下します。
- 使用者の能力とその特定の安全性の限界に応じて、安定性の低下は、転倒防止装置を取り付けることによって補うことができます。



警告!

転倒の危険性

- 部品がすべてフレームにしっかり取り付けられていることを確認してください。
- 車輪、つまみネジ、ネジ、ナットなどがすべてきちんと締め付けられていることを確認してください。
- ブレーキや転倒防止装置がすべて正しく機能することを確認してください。
- 車椅子に乗る前、降りる前に、必ずブレーキをかけてください。
- 車椅子に乗るとき、降りるときには、フットプレートに体重をかけないようにしてください。転倒するおそれがあります。
- シート及び/又はバックレストクッションの厚みを変更すると、車椅子の中心にかかる力に影響があり、これにより設定が変わり使用者の不安定感のリスクにつながる可能性があります。
- シートの角度を調整すると、転倒・転落の危険性が高まる場合もあります。
- 車椅子には常に転倒防止装置を取り付けてください。
- 濡れた場所、滑りやすい場所、坂道などでは、介護者が操作するブレーキの利きが悪くなりますので、十分気を付けてください。
- キャスターと後輪がしっかり取り付けられていることを確認してください。



警告!

脚の怪我の危険

フットプレートでドアを開けようとしたとき、脚を怪我するリスクがあります。

- 車椅子の部品でドアを開けないでください。



警告!

張り調節可能なバックレスト使用時における転倒/転落の危険性

- バックレストに取り付けられたフック・ループ式のストラップが緩んでいると、転倒や怪我につながる危険性があります。ベルトの張り具合は常に確認してください。後輪もきちんと調節し、転倒の危険性がないことを確認してください。



警告!

怪我の危険性

- 取り外し可能なアームレスト、フットレスト、背バンド、または調節可能なハンドグリップをつかんで車椅子を持ち上げないでください。詳しくは、「使用法」のセクションをご覧ください。
- ハンドリムが摩擦で熱くなると、手に怪我をする危険性があります。
- オプションを取り付けるときには、指を挟まないように注意してください。
- 車椅子の背面やシートを傾けるときには、身体の一部が挟まれる危険性が高まります。
- シートの幅を調節するときには、狭くしすぎてアームレストの内側に骨盤が締めつけられる感じにならないように注意してください。



注意!

火傷の危険性

- 外部熱源に晒された場合、車椅子部品が高温になる場合があります。
- 使用前に車椅子を日差しの強い場所に置かないでください。
 - 使用前に、肌に触れるすべての部品の温度を確認してください。



警告!

床ずれと収縮姿勢の危険性

- 使用者は傾いた姿勢で長時間座ることのないようにしてください。床ずれを避けるため、座る姿勢に変化を持たせる必要があります。



注意!

怪我の危険性

- 床ずれまたは皮膚の怪我が発生した場合は、車椅子の布地と直接接触しないよう、傷口を保護してください。医学的な指示については医療従事者に相談してください。



重要!

- 本製品と他の製品を併用するときは、組み合わせに関して両製品の制限事項が適用されます。例えば、併用する片方の製品の使用者最大体重が軽い場合があります。
- Invacare によって許可されている組み合わせ限定で使用してください。詳しくは、Invacare の代理店までご連絡ください。
 - ご使用前に、それぞれの製品ユーザーマニュアルを読み、制限事項を確認してください。

2.2 電磁干渉に関する安全情報

本移動機器は、電磁妨害 (EMI) 規制要件に応じた国際標準に従った検査に合格しました。しかし、ラジオやテレビのトランスミッターから生じるなどの電磁干渉および携帯電話は電動移動機器の機能に影響を及ぼす可能性があります。また、本移動機器で使用する電気は低いレベルでの電磁干渉を引き起こす可能性があります。法的な許容範囲内です。このような理由から、皆様に以下の注意点について観察するようお願いしています:



警告!

電磁干渉による誤作動のリスク

- 移動機器の電源が入っているときは携帯トランシーバーや通信機器 (ラジオトラン

シーバーや携帯電話) の電源を入れたり操作しないでください。

- 強いラジオやテレビのトランスミッターの近づくことを避けてください。
- 本移動機器が意図せずに動き出した場合は、電源を即座に切ってください。
- 電氣的なオプションやその他要素の追加、または本移動機器を改造することにより、電磁干渉の影響を受けやすくなる可能性があります。このような変更が電氣的システムへの全体的な影響の受けやすさを決める確かな方法がないことに注意してください。
- 本移動機器の意図せず動作が起こった場合はすべて製造会社へ報告してください。

2.3 安全装置



警告!

事故の危険性

- 安全装置が正しく装着されていないか (ブレーキや転倒防止装置が) 動作しなくなると、事故が起きることがあります。
- 車椅子を使う前に必ず安全装置が動作しているかご確認ください。また、定期的に資格を持つ技士またはプロバイダーが点検するようにしてください。



注意!

怪我の危険性

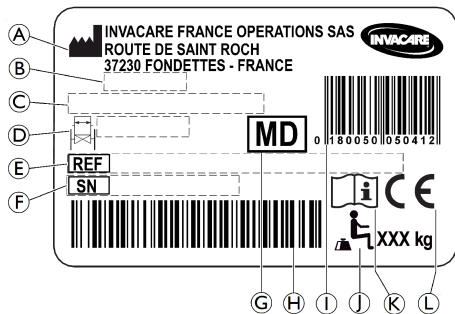
- オリジナルではない部品や不正な部品を使うと製品の機能および安全性が損なわれることがあります。
- 使用中の製品にはオリジナル以外の部品を使わないでください。
 - ご利用可能なオプションは地域によって異なりますので、お住いの地域の Invacare カタログまたはウェブサイトをご覧ください。住所は本書の最後に記載していますのでご確認ください。

安全装置の機能については、3 製品の概要 (9 ページ) に詳しく説明されています。



2.4 製品のラベルと記号

識別ラベル

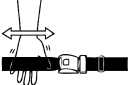
車椅子のフレームに貼られた識別ラベルには次の情報が記載されています。



- Ⓐ 製造業者の住所
- Ⓑ 製造日
- Ⓒ 製品の説明
- Ⓓ シート幅
- Ⓔ 参照番号
- Ⓕ シリアル番号
- Ⓖ 医療機器
- Ⓗ シリアル番号バーコード
- Ⓘ EAN/HMIバーコード
- Ⓙ 使用者最大体重
- Ⓚ 取扱説明書をお読みください
- Ⓛ CEマーク



	取扱説明書をお読みください
	回避されなければ重傷または死亡を引き起こすおそれのある危険な状況を示しています。

姿勢ベルト情報ラベル

	身体とベルトの間にちょうど手のひらが入るスペースがあると、姿勢ベルトの長さは十分です。
--	---

スナップフックの記号

構成によっては、一部の車椅子では電動車椅子でシートとして使用している場合がありますが、そうでない場合もあります。

	人を乗せた車椅子を車両で移動する場合に、拘束システムのストラップを取り付ける位置。この記号は、輸送キットのオプションが注文されたときに車椅子に貼り付けられます。
	警告の記号 この車椅子は、車両での乗客輸送用に設定されていません。このシンボルは識別ラベルに隣接したフレームに貼付されています。

2.5 電子版の記号



廃棄処分とリサイクルの情報。「使用後の処置」、「廃棄処分」のセクションを参照してください。



CLASS II 機器



温度ヒューズのある製品

タイプ B
適用パーツ



IEC60601-1 に基づいて感電防止の指定条件に準拠した適用パーツです。



安全絶縁変圧器、概要

3 製品の概要

3.1 製品の説明

これはシートとバックレスとの傾斜させる機構付きで、レッグレストを後ろに回せて角度を調節できるパッシブな車椅子です。

！ 重要！

車椅子はそれぞれ注文仕様によって個別に製造および設定されています。車椅子の仕様は、使用者の要件や健康状態をもとに医療従事者が判断しなければなりません。

- 車椅子の設定を調節するには、医療従事者までご相談ください。
- 調節はいずれの場合も、資格を持つ技士が行わなければなりません。

3.2 用途

車椅子の用途は、長時間にわたり車椅子に座っている、依存度の高い座位を保つことだけができる人々が、車椅子で移動を可能にすることです。

この車椅子は、12歳以上の人（青年および成人）向けです。車椅子に座る人の体重は、「技術データ」のセクションおよび識別ラベルに記載されている使用者の最高体重を超えないようにしてください。

車椅子は、車椅子に座る人と介助者またはそのどちらかが使用することを意図しています。使用者は、身体的および精神的側面から車椅子を安全に使用（運転、方向転換、ブレーキなど）できなければなりません。

この車椅子は屋内外の平らな面およびアクセス可能な地表面で使用できます（選択したフロントキャスターのサイズによる）。

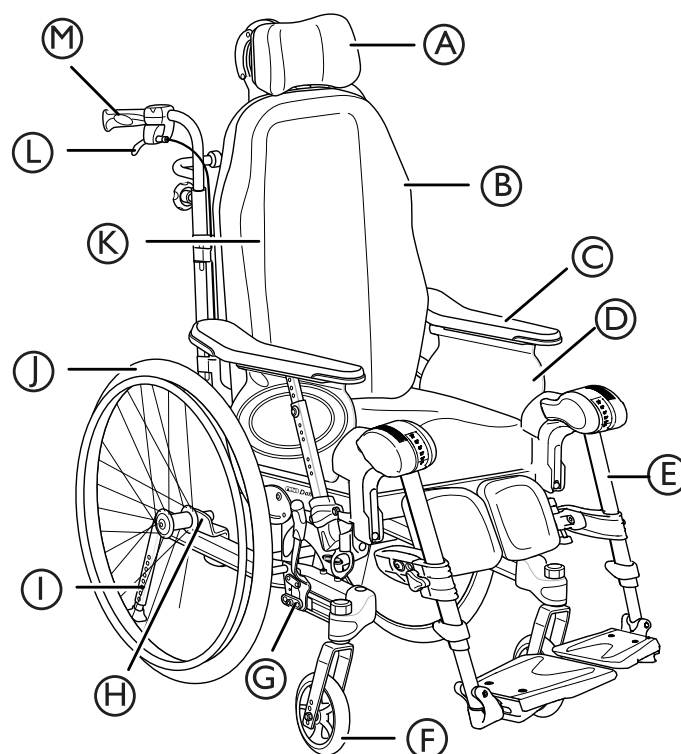
適応

- 下肢の構造的および機能的な障害、またはそのどちらかに起因する完全な運動障害のある人への使用は考慮可。
- 障害により、安定して上向きの座位でいることができない。

禁忌

- 上半身の血圧の上昇に敏感な使用者にシート傾斜を使用することは適していません。

3.3 車椅子の主な部品



- Ⓐ ネックレスト
- Ⓑ バックレスト
- Ⓒ アームレスト
- Ⓓ シート
- Ⓔ 回転式レッグレスト
- Ⓕ キャスター
- Ⓖ ブレーキ
- Ⓗ 後輪プレート
- Ⓘ 転倒防止装置
- Ⓙ ハンドリム付き後輪
- Ⓚ 調節用六角棒レンチ (バックレストクッションの裏に使用)
- Ⓛ バックレスト角度/シート傾斜度調節レバー
- Ⓜ ハンドグリップ

i 車椅子はそれぞれ注文仕様によって個別に製造されているため、車椅子の設備が図と異なる場合があります。

i 車椅子には必ずシートクッションおよびアームレストを取り付けてください。

3.4 パーキングブレーキ

パーキングブレーキは、車椅子の静止時に走行しないよう固定するために使用します。



警告!

急ブレーキによる転倒の危険性

移動中にパーキングブレーキをかけると動作方向をコントロールできなくなり、車椅子が急に停止して衝突したり使用者が転がり出てしまうことがあります。
- 移動中のパーキングブレーキの使用は絶対におやめください。



警告!

車椅子のコントロール不能状態による危険性

- パーキングブレーキは同時に操作しなければいけません。
- パーキングブレーキは車椅子を徐行するためには使用しないでください。



警告!

転倒の危険性

タイヤの空気が不足していると、パーキングブレーキが正しく動作しません。
- タイヤの空気圧が正しいことをご確認ください (詳しくは「タイヤ」章を参照)。



注意!

挟み込みまたは損傷の危険性

後輪とパーキングブレーキの間にととも狭い溝ができておることがあり、指が挟まれる危険性があります。
- ブレーキを使用するときは指を可動部品から離し、手は常にブレーキレバーを握るようしてください。



ブレーキシューと車輪の間の距離は調整可能です。調節は資格を持つ技士が行わなければなりません。

ブレーキを操作するには、車椅子を使用する、段落を参照のこと (セクション 6.2.1 使用者が調節できるブレーキの使用 (36 ページ))。

3.5 バックレスト

3.5.1 張り調節可能なバックレスト

「Laguna」の調節



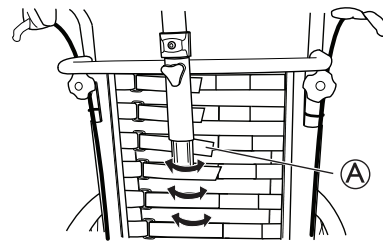
張り調節可能なバックレスト「Laguna」は、Dahlia 30°でのみ利用可能です。



警告!

怪我の危険性

フック・ループ式のストラップがバックレスト上部から緩んでいる場合、頭部の位置によって使用者の首に問題が生じたり、使用者が呼吸困難に陥る危険性があります。
- フック・ループ式のストラップが 6 cm 以上重なって留められていることを確認してください。フック・ループ式のストラップをしっかりと留め、固定されていることを確認してください。



1. フック・ループ式のストラップ **A** を使用して、張り調節可能なバックレスト「Laguna」の形状を調節します。

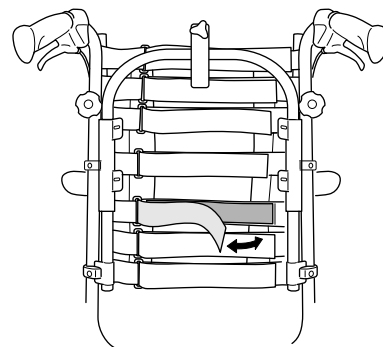


警告!

怪我の危険性

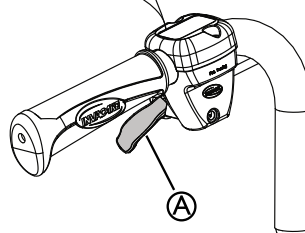
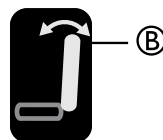
カバーを使用している場合にフック・ループ式のストラップのたわみが大きすぎると、側面とネックレストのボウ/バーによって床ずれが発生する可能性があります。
- 床ずれを防ぐため、バックレストとネックレストの紐/バーの間にスペースがあることを確認してください。

3.5.2 張り調節可能なバックレストの調節



1. 使用者の背中中で、より強く支える必要がある部分を決定します。
2. 使用者の身体を少し前に傾け、この部分のベルトを締めます。
3. ベルトをすべて締めたことを確認してください。
4. カバーを取り付けます。上からまっすぐに被せてください。ベルトの張り調節をしたときのバックレストの形状がそのまま維持されていることを確認します。

3.5.3 バックレストの角度調節



1. バックレストの角度調節には、左側の黄色いマーク **B** 付きの黄色いレバー **A** を使用します。
2. レバーを押し上げ、バックレストが適切な角度になったら、
3. レバーを放します。

3.5.4 シートとバックレストを傾ける

バックレストを含むシートユニット全体を傾けることができます。



警告!

致命的な怪我の危険

上半身に対する血圧の増加。

- 下肢が心臓よりも高い位置となるような設定の組み合わせ (膝角度を開く + 完全な傾斜およびリクライニングなど) はすべて、医学的な観点から評価を受ける必要があります。この姿勢は、上半身の血圧の上昇に敏感な使用者にとって禁忌となる可能性があります。



警告!

窒息または呼吸困難の危険性

シートが傾斜またはリクライニングされた姿勢で座ったまま飲食を行うと、使用者が窒息する危険があります。

- 使用者は飲食を行う前に、起き上がった姿勢で座る必要があります。



警告!

転倒の危険性

車椅子を傾けたりリクライニングしたりすると、後ろに倒れるリスクが高まります。車椅子が傾斜またはリクライニングされた位置にある場合でも、使用者がすべり落ちる危険があります。

- 常に転倒防止装置を使用してください。
- 使用者が斜面にいる場合は、決して目を離さないでください。
- 配置には姿勢ベルトを使用してください。



警告!

怪我の危険性

バックレストをリクライニングし、シートを傾ける場合、使用者は頭部をまっすぐ保持することが必要です。

- バックレストには必ずヘッドレストまたはネックレストを取り付けてください。



注意!

指を挟む危険性

- バックレストの角度を調整するときには、介助者または使用者がバックレストとアームレストの間に指を挟まないように注意してください。



注意!

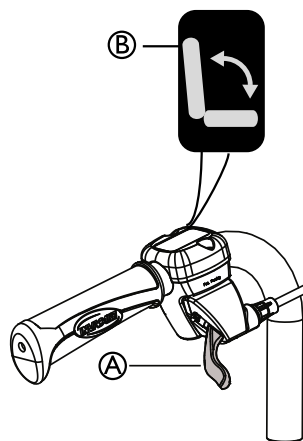
床ずれの問題

傾斜やリクライニングの姿勢の組み合わせは、特定の使用者にとっては不快です。

- 傾斜やリクライニングの角度を調整するときは、まずシートを傾斜させてからバックレストをリクライニングさせるように気をつけて行います。

傾斜とリクライニングの調整を操作するには、車椅子を使用する、段落を参照のこと (セクション 6.3 傾斜/リクライニング機能の使用 (36 ページ))。

介助者による傾斜調節



1. シート全体 (シートとバックレスト) の傾斜角度を調節する場合は、右側にある、緑色のマーク®の付いた緑色のレバー®を使います。
2. レバーを押し上げ、シート全体が適切な角度になったら、
3. レバーを放します。

使用者による傾斜機能



使用者による傾斜機能は、固定式アームレストと取り外し可能なアームレストの両方で使用できます。使用者による傾斜機能は、Dahlia 30でのみ使用できます。



警告!

床ずれと呼吸困難

使用者は、自力でニュートラルの位置に戻ることができない場合があります。

- 使用者による傾斜機能は、認定を受けた技士による評価を受ける必要があります。



警告!

挟まれる危険性

車椅子を傾けたときに、サイドレストと、角度調節可能なレッグレストの上部分の間に指が挟まれる危険性があります。

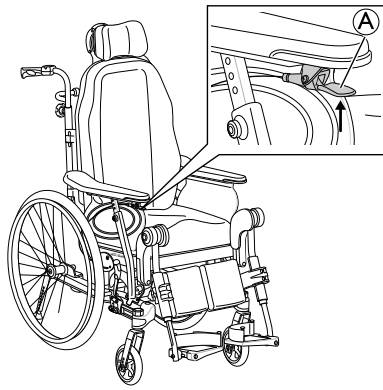
- 車椅子を傾けたときのサイドレストとレッグレストの距離は 25 mm 以上にしてください。指が挟まれるのを防ぐため、サイドレストの奥行またはアームレストの高さを調節してください。



注意!

バックレストを起こすことが困難な場合

- 使用者による傾斜機能を使用する際には、車椅子の傾きが 10° より大きくならないようにしてください。そうでない場合、ニュートラルの位置に戻ることが困難になる可能性があります。

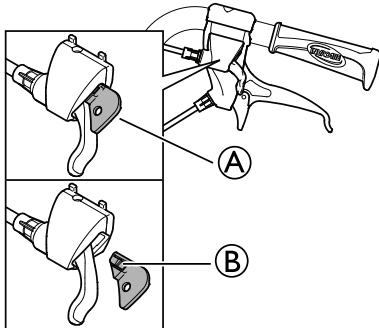


1. アームレストパッドの下のチルトハンドル **A** を押すと、シートが自動的に傾斜します。
2. バックレストを起こしてニュートラルの位置に戻すには、チルトハンドル **A** を押します。シートとバックレストを上げるときは、前腕をアームレストパッドに押し付けます。
3. 使用者による傾斜機能と取り外し可能なアームレストを併用している場合、ニュートラルの位置に戻すには身体を前のめりにしてください。

i 使用者による傾斜機能と取り外し可能なアームレストを併用している場合、アームレストのバーを支えとして使用することはできないため、バックレストの持ち上げにはより多くの力が必要となります。

i ニュートラルの位置に戻すには、傾斜位置からバックレストを起こしている間、足を少し前に移動させてください。

傾斜角度/バックレスト角度調節のロック



ロック装置 **A** を使用すると、シート全体の傾斜調節/バックレストの角度調節後に位置を固定することができます。

1. シート全体/バックレストを適切な傾斜角度に調節します。
2. ロック装置 **A** を差し込みます。

i これで位置が固定され、位置の変更はできません。

ロック装置を取り外すときには、細い棒などを使ってプラスチック製のペグ **B** を押したまま装置を引き抜きます。

傾斜角度とバックレスト角度の電動調節



警告! 怪我の危険性

車椅子の使用者が錯乱状態、落ち着きがない場合、または発作持ちの場合は、次のようにしてください。

- 手動制御機能をロックする
- または、手動制御装置に使用者の手が届かないことを確認する



警告! 怪我の危険性

車椅子を傾ける際、アームレストベースと後輪の間で身体の一部が圧迫される可能性があります。

- アームレストベースと後輪の距離が常に 25 mm 以上になっていることを確認してください。



注意! 製品の損傷の危険性

- 手動制御装置が誤って有効化される可能性がないことを確認してください。
- お子様に手動制御装置で遊ばせないでください。
- 異常な音や不安定な動作など、何らかの異常が見られる場合は、システムをシャットダウンしてください。



誤動作の危険性

- ハンドコントロールや他の電気部品 (モーターなど) に対する作業は、認定を受けた技士が行ってください。

オン/オフボタンを有効化すると、短いビーブ音が出て手動制御装置の有効化を知らせます。手動制御装置は操作後 30 秒間有効で、その後自動的に無効化されます。

i 手動制御装置は、オン/オフボタンを押して手動で無効化することもできます。

i 手動制御でボタンを押すために必要な力は 5 Nm (指の力) です。

手動制御装置の記号



バッテリーと充電インジケーター



ロック機能



オン/オフ



バックレストリクライン (矢印とバックレストは黄色)

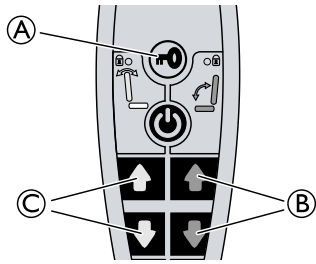


座席の傾斜 (矢印、バックレスト、シートは緑色)

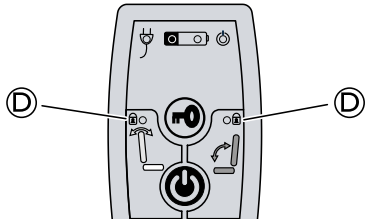


上/下 (バックレストリクラインは黄色、座席の傾斜は緑色)

リクライニングおよび傾斜機能のロック

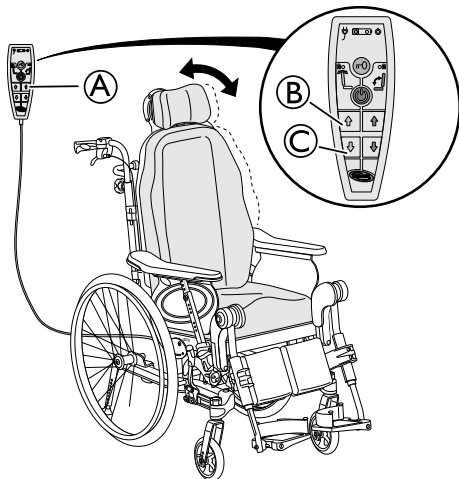


1. ロックキー(A)を押します。
2. ロックキーAを押し続けます。
3. 座席の傾斜(緑)では(B)を同時に押し、バックレストの角度調節(黄)では(C)を同時に押します。
4. 機能を解除するには、同じ手順を繰り返します。



i 機能がロックされると、黄色の表示ランプ(D)が点灯します。

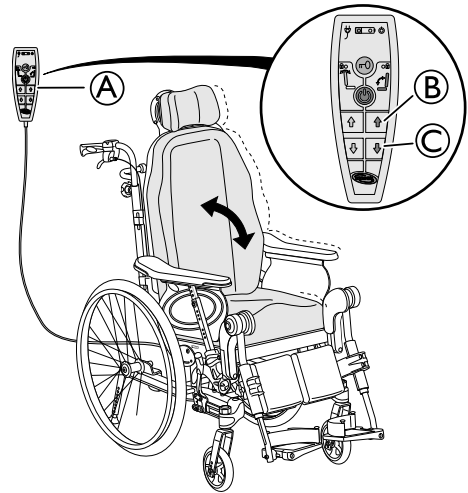
バックレストの角度調節



バックレストの角度を調節する場合は、手動制御装置(A)の左側にある黄色のボタンを使います。

1. ボタン(B)を押すとバックレストが前方(上方向)に傾きます。
2. ボタン(C)を押すと後方(下方向)に傾きます。

シートの傾斜調節



シート全体(シートとバックレスト)の傾斜角度を調節する場合は、手動制御装置の左側にある緑色のボタン(A)を使います。

1. ボタン(B)を押すとシート全体が前方(上方向)に傾きます。
2. ボタン(C)を押すとシート全体が後方(下方向)に傾きます。



注意!

指を挟む危険性

軽い怪我を負う可能性があります。

- 電動で調節する場合は、使用者自身が調節する場合に比べて指などを挟まれる危険性が高くなります。
- たとえば、コントロールボックスが子供の手の届く場所にあると、誤ってボタンを押し、子供自身または車椅子の使用者が指などを挟まれることがありますので、十分注意してください。
- 手動制御装置は、許可を得たスタッフのみが使用してください。

バッテリー充電



警告!

感電の危険性

- バッテリー充電中は車椅子に座らないでください。



バッテリーの損傷

- システムを最初に使用する24時間前に、バッテリーを充電する必要があります。
- 充電後と車椅子を使用する前に主電源ケーブルを外します。



バッテリー充電器には、さまざまな地域の電気標準に対応するため、複数の種類の充電ケーブルが付いています。



使用中にバッテリーレベルが低下(20%)すると、音が鳴ります。

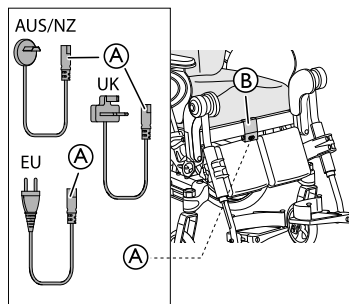
充電器ケーブルの接続



注意!

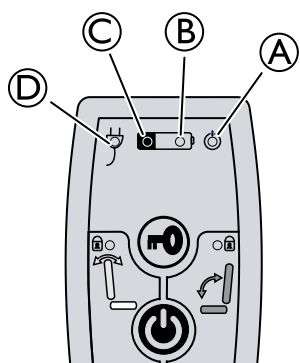
ケーブルの損傷。

- バッテリー充電中は車椅子に座らないでください。



1. 付属品の充電器のケーブルを壁のコンセントに差し込みます。
2. 車椅子の前面にコネクター **B** がありますので、ここに充電器のケーブル **A** を差し込みます。
3. バッテリーが満充電になったらケーブルを外します。

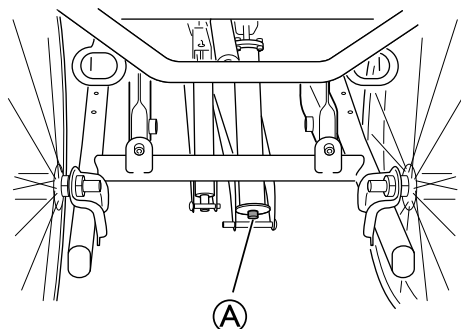
手動制御 — バッテリーインジケーター



- Ⓐ 緑色のライト — オン — 手動制御装置が有効化されています
- Ⓑ
 - 緑色のライト — オン — バッテリーレベルが 20% を超えています
 - 緑色のライト点滅 — オン — バッテリーが充電中です (満充電になると、ライトが点灯状態になります)
- Ⓒ
 - 黄色のライト — オン — バッテリーレベルが 20% 未満に低下しています
- Ⓓ 緑色のライト — オン — バッテリーケーブルが接続済みです (ケーブルを接続した 5 秒後に点灯します)

傾斜機能の抵抗調節

傾斜時の抵抗を増加または減少させるため、傾斜機能の抵抗を調節できます。抵抗は使用者ごとに個別に調節できます。



1. 抵抗を調節する前に、シートが傾斜していないことを確認します。
2. 適切な抵抗になるよう、ネジ **A** を調節します。
3. 後へ傾けたときの抵抗を減らすには、ネジ **A** を外側へ調節します。これにより、傾斜を上げた時の抵抗が増加します。
4. 後ろへ傾けたときの抵抗を増やすには、ネジ **A** を内側へ調節します。これにより、傾斜を上げた時の抵抗が減少します。

i 道具：六角棒レンチ 5 mm

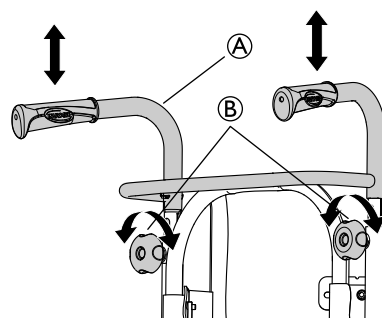
i 工場からの出荷時には、車椅子のシートは常に標準的な位置 (傾斜 0 度) になっています。

3.6 ハンドグリップ

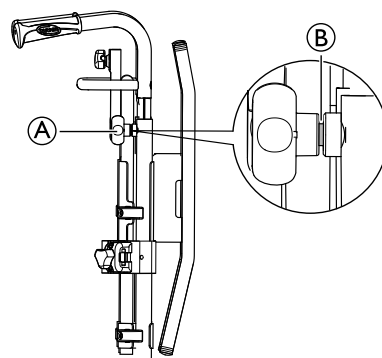
以下に、ハンドグリップの取扱い方法と取扱いに関する注意事項を示します。

i バックレストパイプのハンドグリップについては、ハンドグリップの高さ調節の手順に従ってください。

3.6.1 取り付けられたハンドグリップの高さの調節

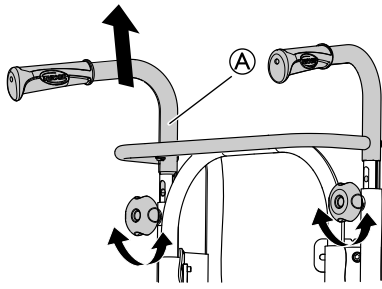


1. つまみネジ **B** を緩めます。
2. ハンドグリップ **A** の高さは、ハンドグリップを上げ下げするだけで簡単に調節できます。
3. 適切な高さに調整します。
4. つまみネジを締め直します。



i ハンドグリップ **A** のつまみネジがパイプの穴にきちんとはまっていることを確認してください。つまみネジ **B** のネジ部が 2,5 mm 以上見えている場合は、位置が間違っています。ハンドグリップを上げ下げして、つまみネジを正しい位置に調節してください。

3.6.3 ハンドグリップの角度調節

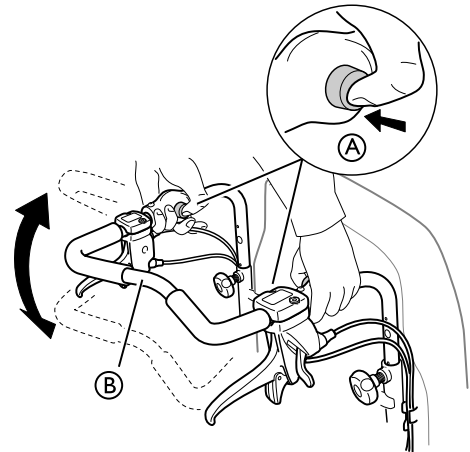


i ハンドグリップ **A** を引き上げる場合は、取付部上端からハンドグリップ上端までの距離を 19 cm 以下にします。



注意!
指を挟む危険性

- ハンドグリップとネックレスト取付部の間に指を挟まないように注意してください。(張り調節可能なバックレストの場合)。



1. ボタン **A** を押します。
2. ハンドグリップ **B** を任意の角度に調整します。
3. ボタン **A** を放します。



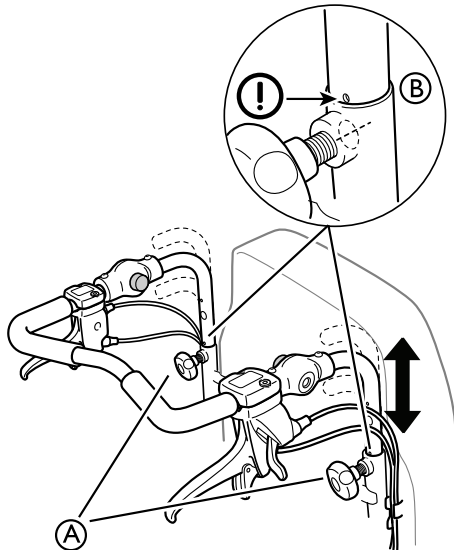
ハンドグリップを少し動かして、ボタンがロックするようにします。



警告!
バランスを崩す危険

- バランスを崩す可能性があるため、ハンドグリップに物を掛けしないでください。

3.6.2 ハンドグリップの高さの調節



1. つまみネジ **A** を緩めます。
2. ハンドルを適切な高さに調整します。2つの固定位置が提供されています。
3. つまみネジを締め直します。



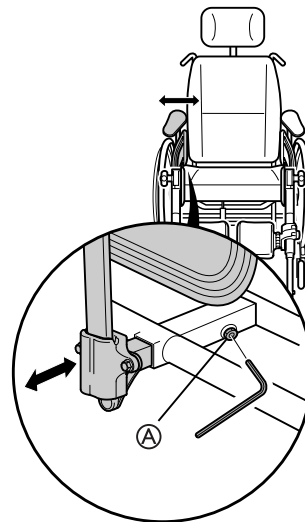
警告!
怪我の危険性

ハンドグリップは取付部で緩むことがあります

- パイプのマーク **B** がバックレストパイプに取り付けられていることを確認します。
- つまみネジを正しく締められることを確認します (ネジの部分はほとんど見えません)。ハンドグリップが間違った位置にある場合、つまみネジを正しく締めることはできません。

3.7 シート

3.7.1 シート幅の調節



1. 六角棒レンチでネジ **A** を緩めます。



道具：六角棒レンチ 5 mm

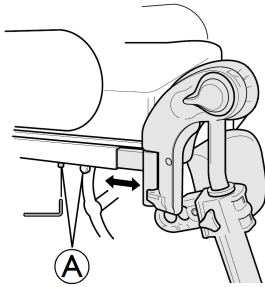
2. アームレストを適切な幅に調整します。
3. ネジ **A** を締め直します。



不適切な調節の危険性

- ネジを調節しているときに、アームレスト/レッグレストに力が加からないように注意してください。

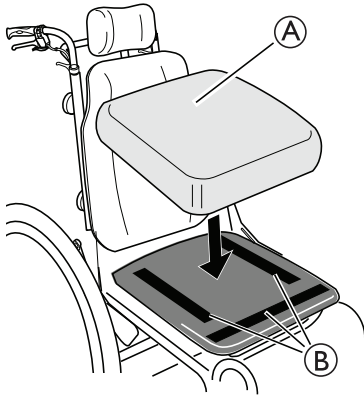
3.7.2 シートの奥行調節



1. シートクッションを外します。
2. 5 mm の六角棒レンチでネジ ① を緩めます。
3. シートの前端を前後に動かして適切な位置に調節します。
4. ネジ ① (5 ~ 6 Nm) を締め直します。
5. シートクッションを元の位置に戻します。

i ひかがみとクッションの間の距離はできるだけ小さくしますが、ひかがみがクッションに触れないようにしてください。

3.7.3 シートクッションの調節



クッションモデルによって異なりますが、一部のシートクッション ① は、フック・ループ式のストラップ ② でシートプレートに固定できます。

警告!
シートクッションがすべり落ちる危険性
- フック・ループ式のストラップがしっかりと留められ、固定されていることを確認してください。

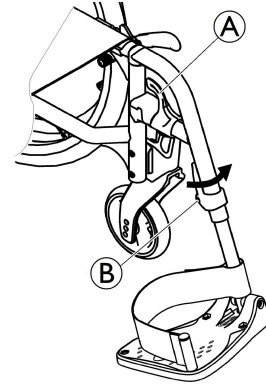
3.8 レッグレスト

警告!
怪我の危険性
- 決してフットレストサポートやレッグレストをつかんで持ち上げないでください。

注意!
指を挟むまたは損傷する危険性
回転部分の機構に指が挟まる可能性があります。
- それらの機構を使用、回転、分解また調節するときは気を付けてください。

重要!
レッグレストへの損傷の危険性
- レッグレストには重いものを載せないようにしてください。また、子供がレッグレストに座ったりしないように注意してください。

3.8.1 回転式レッグレスト



外側に回転

1. リリースレバー ① を有効化し、レッグレストを外側に回します。

前方に回転

1. レッグレストを有効になるまで前方に回します。

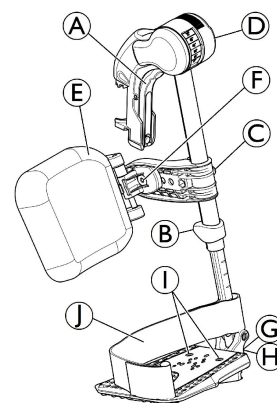
格納

1. リリースレバー ① を有効化します。
2. レッグレストを引き上げます。

展開

1. レッグレストをフレームの前面に展開し、有効になるまで前方に回します。

3.8.2 回転式、角度調整可能なレッグレスト



外側に回転

1. リリースレバー ① を有効化し、レッグレストを外側に向けます。

前方に回転

1. レッグレストを有効になるまで前方に回します。

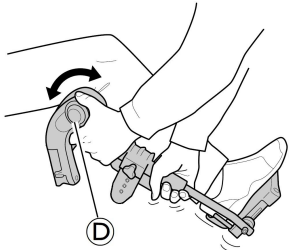
格納

1. リリースレバー **A** を有効化し、レッグレストを外側に向けます。
2. レッグレストを引き上げます。

展開

1. レッグレスト受けまで押し下げ、有効になるまで前方に向けます。

角度の調節

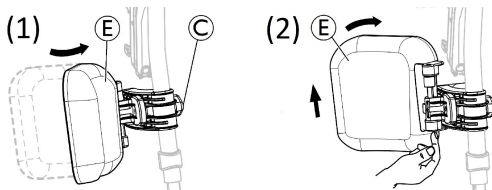


6つの既定の位置に角度を調節できます。

1. 片手でレッグレストを支えながら、もう一方の手でノブ **D** を回転させます。
2. 適切な角度に調節したら、ノブを放します。レッグレストが適切な位置に固定されます。

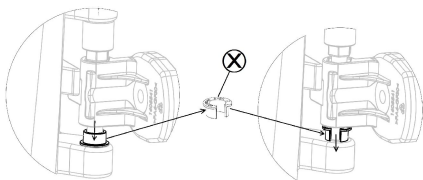
カーフパッドの回転と調節

- カーフパッドを前方 (1) または後方 (2) に回転:



1. カーフパッド **E** を前方 (1) に回します。
2. カーフパッド **E** を引き上げ、後方 (2) に回します。

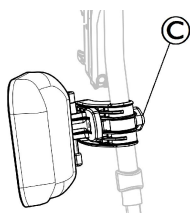
- カーフパッドの回転を後方にロックする:



1. 灰色のスペーサーオープンリング **X** をその場所から引き出します。
2. 灰色のスペーサーオープンリングを逆にします。
3. 灰色のスペーサーオープンリング **X** を図の右側に示されているように挿入します。

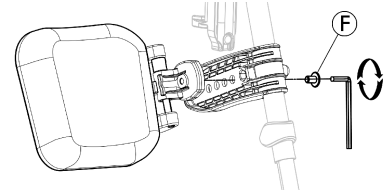
i カーフパッドの回転を後方にロック解除するには、この手順を逆に実行します。

- カーフパッドの高さの調節:



1. ノブ **C** を緩めます。
2. ノブを適切な高さに調節し、再び締めます。

- カーフパッドの奥行の調節



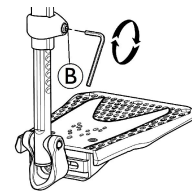
カーフパッドには、奥行調節の方法が4つあります:

1. 5 mm の六角棒レンチで固定ネジ **F** を外します。
2. 固定ネジ **F** (3 ~ 5 Nm) を4つの位置のいずれかに調整し、しっかりと締めます。

フットプレートの調節

3つの異なる折りたたみ式のフットプレートがあります。

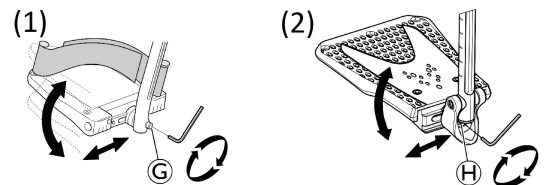
- 高さ調節が可能な標準フットプレート:



1. 5 mm の六角棒レンチで固定ネジ **B** を緩めます。
2. 高さを調節した後、フットプレートパイプ上のいずれかの凹部にネジをはめます。
3. 固定ネジ **B** (3 ~ 5 Nm) を適切な位置でしっかりと締めます。

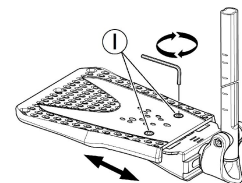
i フットレスト下端から床 (地面) までの距離は 50 mm 以上にしてください。

- 奥行、角度 (1)、幅 (2) が調節可能なフットプレート:



1. 5 mm の六角棒レンチで固定ネジ **G** または **H** を緩めます。
2. 奥行と角度を調整して、固定ネジ **G** (12 Nm) または **H** (8 ~ 9 Nm) を適切な位置にしっかりと固定します。

- 幅調整が可能なフットプレート (2):



1. 5 mm の六角棒レンチで固定ネジ **1** 2本を緩めます。
2. 幅の位置を調整して、固定ネジ **1** (3 ~ 5 Nm) を適切な位置にしっかりと固定します。

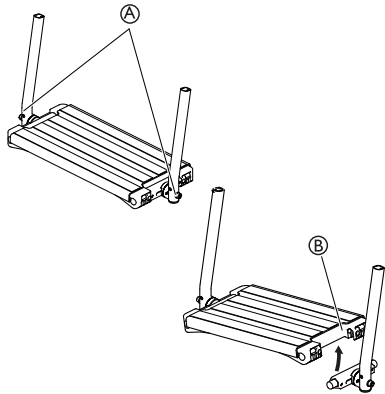
Invacare は、資格を持つ技士がフットプレートの調整を行うことをお勧めします。

- i 足の位置を快適にするために、2種類のストラップが用意されています。ヒールストラップ①(シリアル)とレッグレストサポートに取り付けられたカーフストラップ(オプション)の2種類です。フック・ループ式の留め具なのでどちらも調整可能です。

3.8.3 その他のフットプレートおよびフットレスト

一体型フットレストの調節

- 警告!**
指を挟む危険性
フットプレートとフットプレート取付部の間に指が挟まれる可能性があります。
- フットプレートを元の位置に戻すときには、フットプレートとフットプレート取付部の間に指を挟まないように注意してください。



1. フットプレート取付部の2つのネジ①を緩め、角度と奥行を調節します。

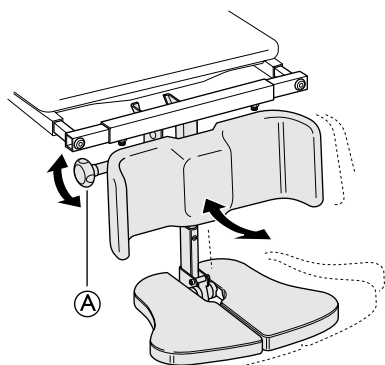
i 道具：六角棒レンチ 5 mm

2. フットプレートを適切な位置まで調節します。
3. ネジを締めつけトルク 10 Nm で締め直します。

- i フットプレートは跳ね上げ式です。フットプレート②を持ち上げる際は上図のとおりにしてください。

- i ネジが緩んでいるときには、フットプレートに物を載せないでください。

3.8.4 レッグレスト中央部の角度調節



1. 調節ノブ①を緩めます。
2. もう一方の手でフットプレートを持ちます。

3. 脚部の傾斜角が適切になるように調節します。
4. ノブを締め直します。



- 警告!**
指を挟む危険性
フットプレートを調節するときに指を挟む可能性があります。
- 自分または他の人の指を挟まないようにするため、片手でフットプレートを持ちながら、もう一方の手で調節ノブを緩めてください。



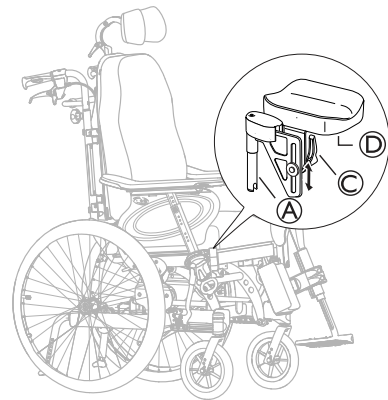
- 注意!**
損傷の危険性
レッグレストによって床に傷がつく可能性があります。
- レッグレストが長く、シートの位置が低い場合に、シートを前方に傾けると、レッグレストが床にぶつかり、傷の原因になることがあります。

3.9 切断者用レッグレスト



- 警告!**
転倒の危険性
切断者は転倒の危険性が高いので注意してください。
- 車椅子使用時には転倒防止装置を使用し、車椅子のバランスを再調整してください。

3.9.1 角度、高さ、奥行の調節

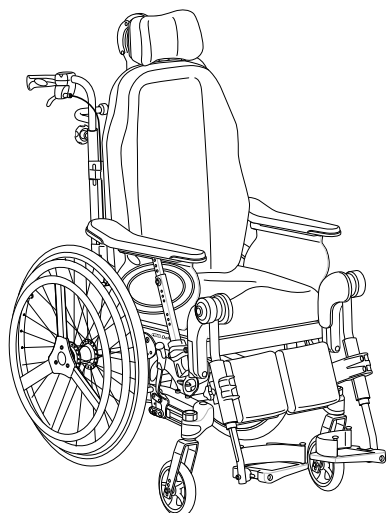


1. レッグレストを取り付けるときには、レッグレスト上部①のパイプを車椅子のパイプ②に差し込みます。
2. レッグレストを内側に向けるとロックされます。
3. クッション取付部のレバー③を緩め、クッションの角度と高さを調節します。
4. クッションの下のネジ④を緩め、クッションの位置を前後に調節します。
5. 調節が完了したら、レバーやネジを締め直します。

3.10 片手運転

3.10.1 片手運転の使用

片手運転を使用すると、車椅子を片腕で移動させることができます。つまり、同じホイールに2本のハンドリムを設置できます。



i 操作車輪は、左右どちらの側に取り付けることもできます。

i ハンドリムは並べて配置することも(内側の位置)、内側に小さなハンドリム、外側に大きなハンドリムを配置することも(外側の位置)できます。3つのネジ**B**が所定の位置にロックされていることを確認します。

! **注意!**
怪我の危険性
- 必要に応じて、資格を持つ技士が制御側および小さなハンドリムの位置の変更を行う必要があります。

3.10.2 片手運転で後輪を取り外す

! **警告!**
怪我の危険性
- 後輪を取り外す前に、必ず入れ子式の後輪シャフト**C**を取り外してください。

! **警告!**
怪我の危険性
車輪が外れる
- 後輪が正しい位置にきちんと固定されていることを確認してください。取り外し可能な車軸ボタン**A**が無効化されている場合、後輪を外すことはできません。試しに車輪を引っ張り、

! **注意!**
怪我の危険性
経度の打撲、痛み
- 後輪のスポークと、外側ハンドリムの3つのブラケットの間に指を挟まないように注意してください。

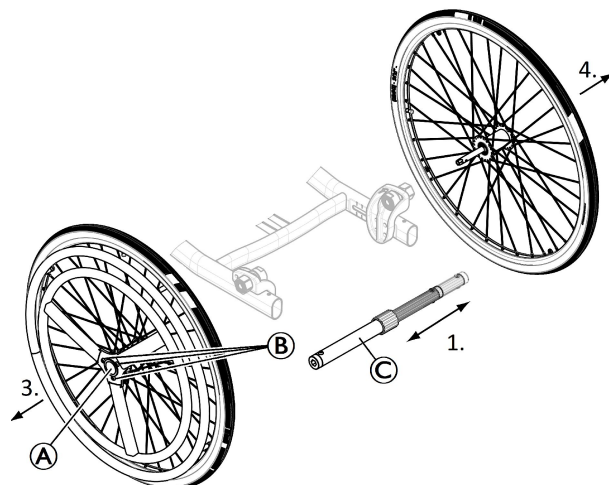
後輪シャフトの取り外しと取り付け

車椅子を折り畳むには、入れ子式の後輪シャフト**C**を取り外す必要があります。

1. 片方をもう一方の中にスライドさせて、入れ子式のシャフト**C**を取り外します。
2. この操作をしやすいするには、小さなハンドリムを前方から後方へ動かします。
3. 手順を逆に行って、入れ子式の後輪シャフトを取り付けます。

! **注意!**
事故の危険性
- 入れ子式の後輪シャフト**C**は車椅子の不可欠な部品であり、使用者は後輪シャフトなくして車椅子を運転することはできません。

後輪の取り外しと装着

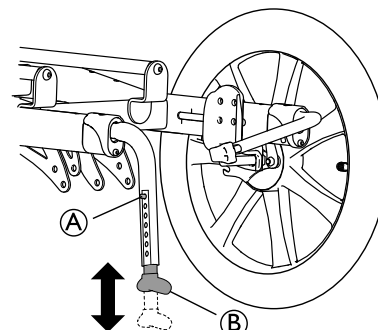


取り外し可能かつ交換可能な後輪は、簡単に輸送したり、制御側を変更したりできます。

1. 入れ子式の後輪シャフト**C**を取り外します。
2. 取り外し可能な車軸ボタン**A**を押します。車軸ボタンを押したまま、車輪を外側に引き抜きます。
3. 後輪を取り外します。
4. 反対側についてもこの手順を繰り返します。
5. 手順を逆に行って、後輪を再度装着します。


3.11 転倒防止装置


3.11.1 転倒防止装置の高さの調節



1. 転倒防止装置の高さを調節するには、バネ式ボタン**A**を押します。
2. 転倒防止装置**B**を適切な高さに調整します。
3. 調節後、バネ式ボタン**A**が新しい位置に正しく飛び出すことを確認します。

Invacare は、資格を持つ技士が転倒防止装置の高さの調節を行うことをお勧めします。

 転倒防止装置の高さは7段階で調節できます。転倒防止装置の下部の床からの高さを15 mm (最小) から40 mm (最大) の間に調節します。

 この調節は、後輪の位置と直径、およびユーザーの状態とその特定の安全性の限界を基準にして行う必要があります。



警告!

転倒の危険性

転倒防止装置のサポートが十分でない
 - 芝生などの柔らかい場所で車椅子を動かす場合、転倒防止装置の使用には注意してください。転倒防止装置が地面に沈み込む可能性があります。

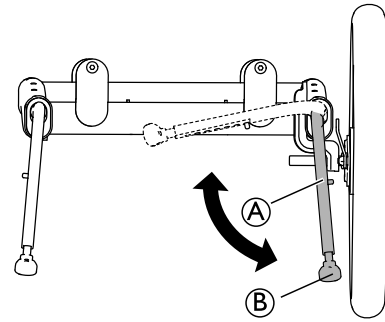


重要!

損傷の危険性

- 杖ホルダーを踏みつけたり、転倒補助として使用しないでください。

3.11.2 転倒防止装置の有効化および無効化



1. 輸送時の形態にするには、転倒防止装置 **A** の下部分 **B** を足で押し、内側に折りたたみます。
2. 反対側についてもこの手順を繰り返します。



警告!

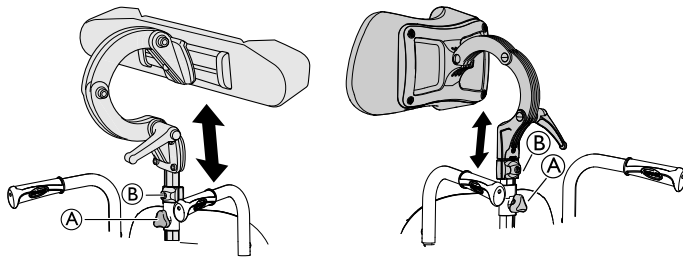
転倒の危険性

転倒防止装置が有効な形態になっていない場合、車椅子は後方に転倒する可能性があります。
 - 輸送後には転倒防止装置を有効な形態にするのを忘れないでください。

4 オプション

4.1 ヘッドレスト/ネックレスト

4.1.1 高さ調節

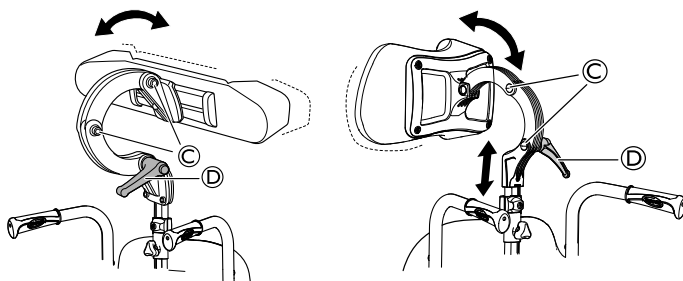


i 高さ調節や取り外しにはつまみネジを使います。バーの部分に調節可能な停止ブロックが付いています。

1. 停止ブロックのネジ **B** を緩めます。
2. つまみネジ **A** を緩めます。
3. ヘッドレストを適切な位置に調節します。
4. つまみネジ **A** を締め直します。
5. 停止ブロック **B** をヘッドレスト取付部上端まで下げます。
6. ネジを締め直します。

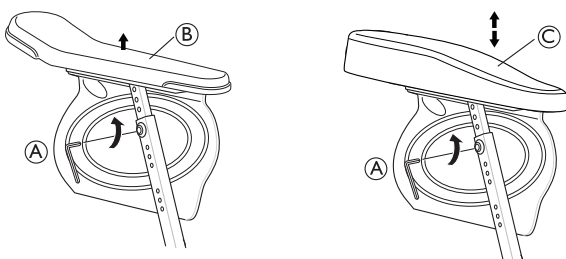
i これでヘッドレストを取り外し、適切な位置に付け直すことができます。追加調節は必要ありません。

4.1.2 奥行/角度の調節



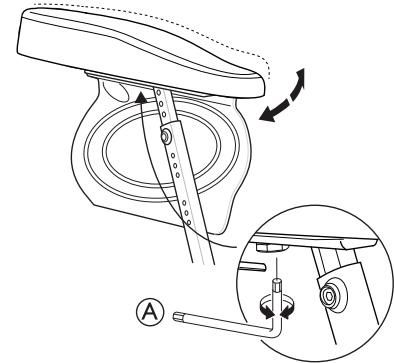
1. ハンドル **D** を緩めます。
2. ネジ **C** を緩めます。
3. ヘッドレストの奥行と角度を調節します。
4. ハンドルとネジを締め直します。

4.2 片麻痺患者用アームレスト

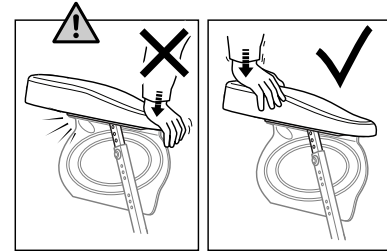


1. ネジ **A** を緩めます。

2. 元のアームレスト **B** を外します。
3. 片麻痺患者用アームレスト **C** のバーに片麻痺患者用アームレストを取り付けます。
4. ネジ **A** を締め直します。



5. 片麻痺患者用アームレストは角度が調節できます。ネジで遊びの調節も可能です **A**。

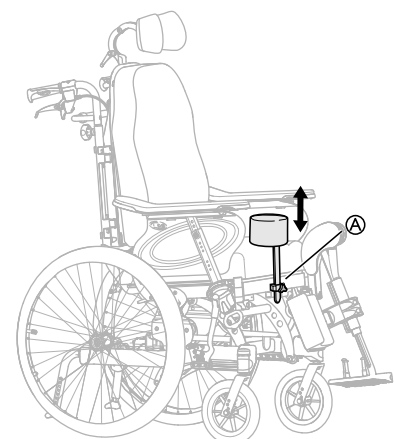


警告！ 損傷の危険性

アームレストの破損
- アームレスト前方に力をかけないでください。取付部が破損するおそれがあります。

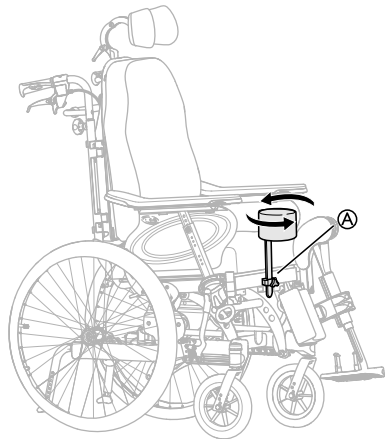
4.3 外転防止用クッション

- 1.



高さ調節や取り外しには、つまみネジ **A** を使います。

- 2.



前方または後方に位置を変えることもできます。つまみネジ A を緩め、クッションを回します。

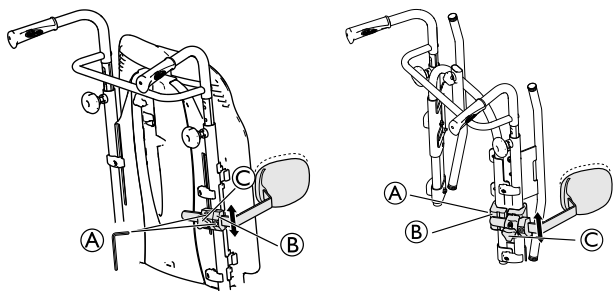
4.4 固定アームで体幹サポート

体幹サポートは、高さ、奥行(前後)および向き(左右)の調節ができます。



警告!
挟む危険性

バックレストの角度を変えるときには、体幹サポートとアームレストの間に腕を挟まないように注意してください。



バックサポート

調節可能なバックレスト

📏 道具：六角棒レンチ 5 mm

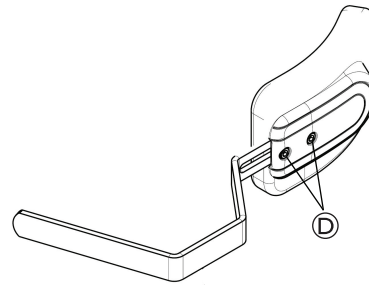
高さ調節

1. 高さを調節するには、まずネジ A を緩めます。
2. 取付部 B を上下に動かします。
3. ネジを締め直します。

向きの調節

1. 体幹サポートの向きを調節するには、つまみネジ C を緩めます。
2. 体幹サポートを適切な向きにします。
3. つまみネジ C を締め直します。

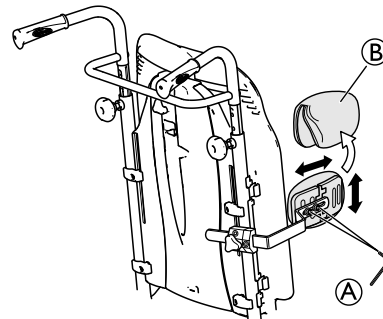
奥行調節 — 固定式クッション



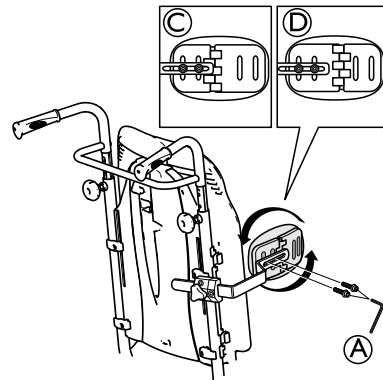
📏 道具：六角棒レンチ 5 mm

1. 体幹サポートの奥行を調節するには、六角棒レンチでネジ D を緩めます。
2. 体幹サポートを前後に動かします。
3. ネジを締め直します。
4. 体幹サポートを取り外すときには、つまみネジ C を緩め、体幹サポートを外側に引っ張ります。

奥行調節 — 多機能クッション

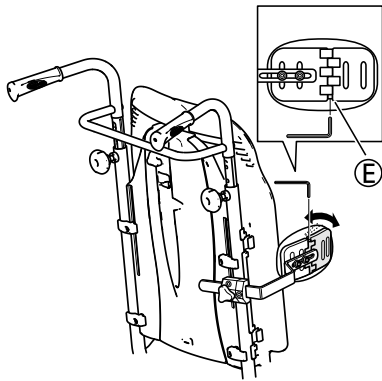


1. 体幹サポートカバー B を外します。
2. ネジ A を緩め、適切な高さ/奥行に調節します。
3. ネジを締め直します。

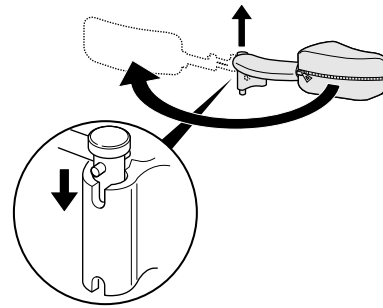


- Ⓐ 高さ/奥行調節ネジ
- Ⓒ 小型サイドガード/大型体幹サポートでの取付部位置
- Ⓓ 大型サイドガード/小型体幹サポートでの取付部位置

角度調節 — 多機能クッション



1. ネジ ⑤ を緩めます。
2. クッションを適切な角度に調節します。
3. ネジを締め直します。



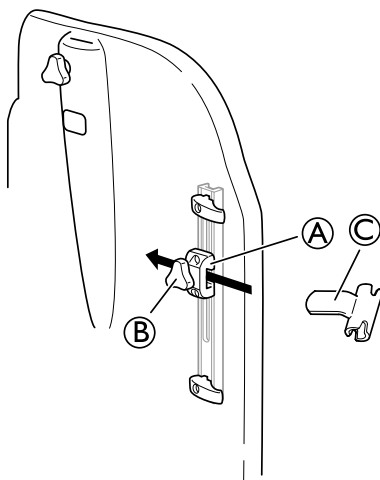
i 車椅子に乗り降りするときには、体幹サポートが邪魔にならないよう、「後ろへ回し」ます。



注意! 挟まれる危険性

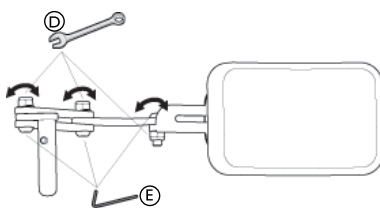
– 車椅子を使用するときには必ず体幹サポートのカバーを付けてください。

4.5 体幹サポート「後ろ回し」



i バックレストの取付部 ① に、体幹サポートを「後ろに回す」ための支持部を差し込みます。

1. ノブ ② を緩めます。
2. 体幹サポートホルダー ③ を外します。
3. ノブを締め直します。



i 道具：5 mm 六角棒レンチ + 13 mm 固定スパナ。

1. 角度を調節するときには、体幹サポートのネジ ⑤ やネジ ⑥ を緩めます。
2. 六角棒レンチで固定し、固定スパナを使って締めます。
3. 適切な位置を確保した後にネジやボルトを締め忘れないように注意してください。

4.6 側面位置調整パッド (調節可能なバックレストカバーの場合のみ)



警告! 挟む危険性

– 車椅子の前面または側面から使用者が車椅子に乗るときに、2つの側面位置調整パッドの間に体を挟まないように注意してください。



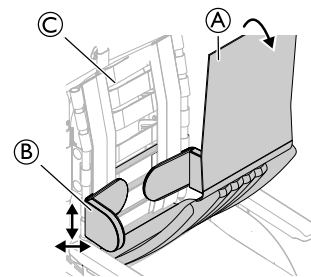
注意! 不自然な姿勢になる危険性

側面位置調整パッド間のスペースが十分でないと、使用者によっては不自然な姿勢になる可能性があります。
– この調節作業は、車椅子を処方した医師の同意を得た上で資格を持つ技士が行ってください。
– 認定プロバイダーに相談してください。



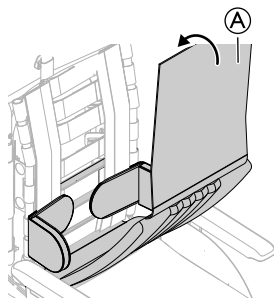
側面位置調整パッドは、高さとの向きが調節できます。

4.6.1 側面位置調整パッドの使用



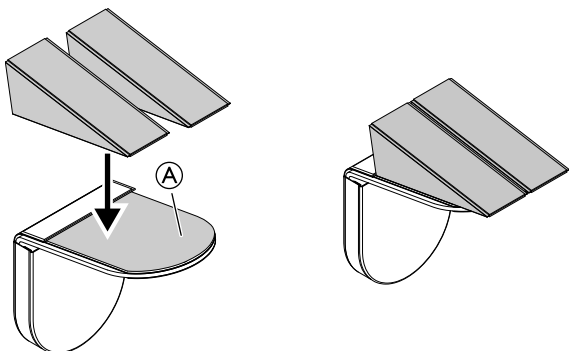
1. バックレストカバー ① を外します。
2. バックレストカバー ③ のマジックテープの表面を使用して、側面位置調整パッド ② の高さとの向きを適切な位置に調整します。

- 2つのマジックテープの表面 (パッドおよびバックカバー) が正しく取り付けられていることを確認します。




- バックレストカバー (A) を元の位置に戻します。

4.6.2 側面位置調整パッドでの留め具の使用



- セルフグリップのパッド (A) に留め具を取り付けます。
- 側面位置調整パッドをバックレストに取り付けます。

 セクションの参照情報: 「側面位置調整パッドの使用」

4.7 ドリップスタンドの調整

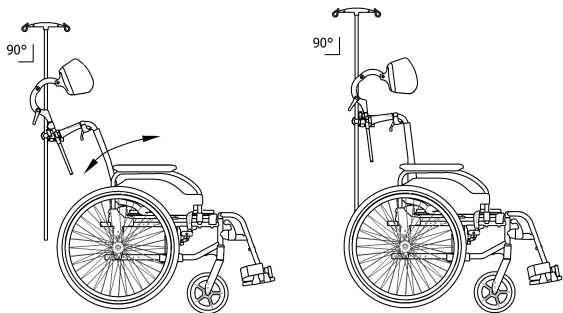


警告!
転倒/怪我の危険

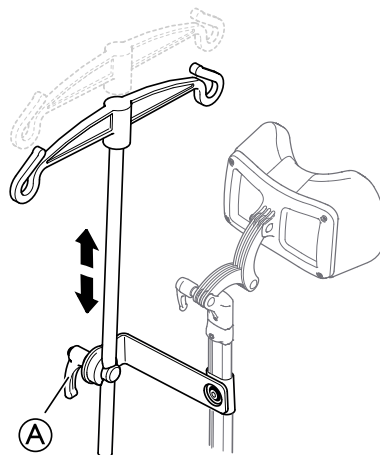
– ドリップスタンドに載せられる最大重量 :
4 kg (2 x 2 kg)



ドリップスタンドの棒は、バックレストまたは車椅子の位置に関係なく、必ず垂直つまり地面に対して 90 度にする必要があります。

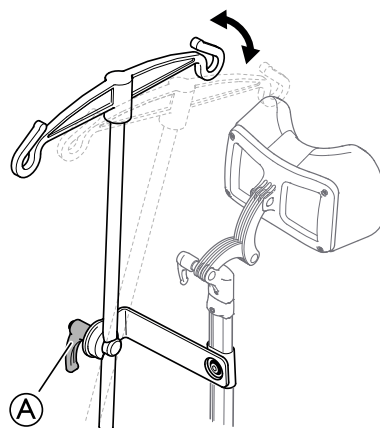


高さ



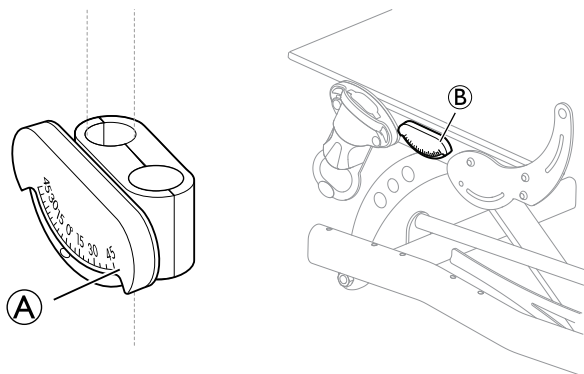
- レバー (A) を緩めます。
- ドリップスタンドを適切な高さに調整します。
- レバー (A) をきつく締めます。

角度



- レバー (A) を緩めます。
- 適切な角度に調整します。
- レバー (A) をきつく締めます。

4.8 チルトスケール



(A) = チルトスケールパッド (B) = チルトスケールシート

付属品のチルトスケールオプションを見ると、シート全体の傾きの角度や、バックレストのリクライニング角度がわかります。

4.9 テーブル



警告!
転倒/怪我の危険
- テーブルは姿勢ベルトの代わりに使用してはなりません。



警告!
転倒/怪我の危険
- テーブルに載せられる最大重量: 8 kg

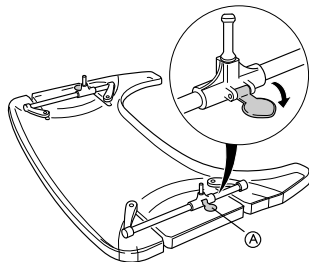


注意!
不快感/軽度の打撲の危険性
- 車椅子を押す場合、使用者の肘がテーブルの上に置かれていることを確認します。車椅子を押すときにテーブルから肘が突き出ていると、不快感または軽度の打撲の危険性があります。

テーブルは奥行と幅の両方を調整できます。次のセクションでは、さまざまな可能性について説明します。

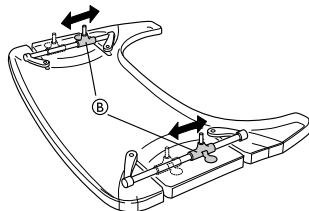
4.9.1 テーブルの奥行の調節

1.



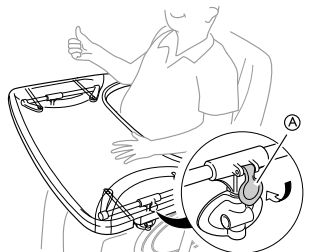
奥行調節 **A** の安全ロックを開きます。

2.



テーブル取付用ブラケット **B** を前後に調節して適切な奥行にします。

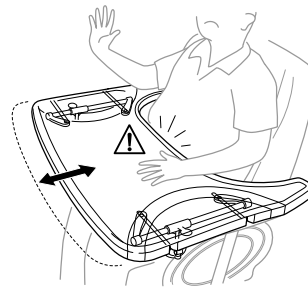
3.



テーブルロック **A** を閉じて、奥行の位置をロックします。



注意!
圧迫感/不安定の危険性
テーブルが固定位置にありません。
- テーブルの奥行を調節した後、テーブルロックを必ず有効にします。

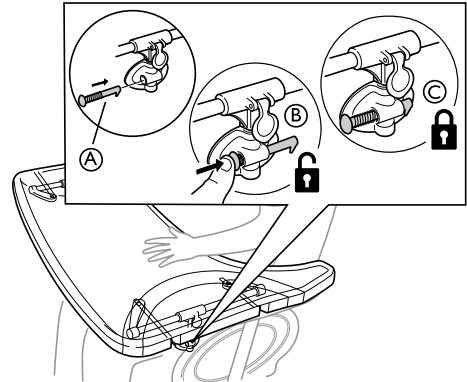


注意!
圧迫感の危険性
- テーブルの奥行を調節する際、使用者の腹部を圧迫しないようにします。

4.9.2 テーブルのロック



警告!
怪我の危険性
使用者は固定位置にロックされ、テーブルのロックを解除しない限り車椅子から降りることはできません。
- テーブルのロック装置の使用は有資格者によって行ってください。

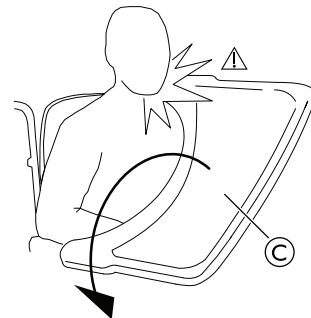


1. テーブル取付部にロックピン **A** を取り付けます。
2. ロックピン **A** を内側に押し、テーブルのロックを解除 **B** します。

i テーブルのロックを解除状態を続けるには、ロックピンを内側に押し続けます。

3. ロックピン **A** を外し、テーブルの位置をロック **C** します。

4.9.3 テーブルの回転



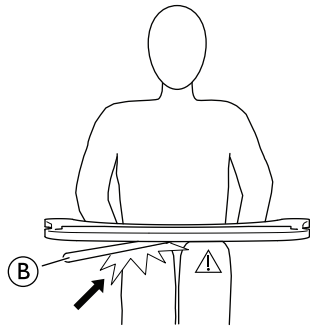
警告!
怪我/打撲の危険性
- テーブルを回転させるときに使用者にぶつからないように注意してください。



警告!

テーブルが前に転落する危険性

- テーブルに体重をかけると転落する危険性があるため、テーブルの奥行を前に調節しすぎないようにしてください。

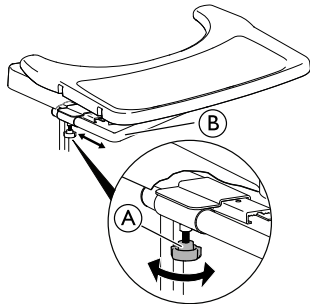


注意!

不快感/軽度の打撲の危険性

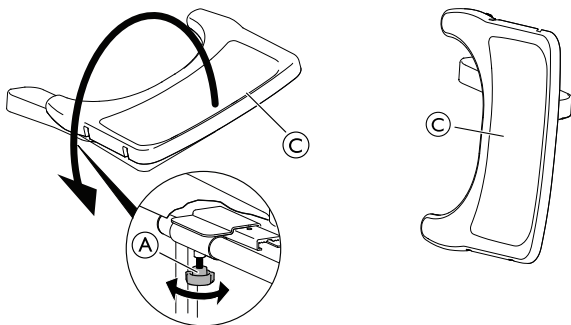
- 脚に十分なスペースがあることを確認してください。テーブルチューブが使用者の脚に載らないようにします。

奥行調節



1. つまみネジ (A) を緩めます。
2. テーブルチューブ (B) でテーブルの奥行を調節します。
3. つまみネジ (A) を締め直します。

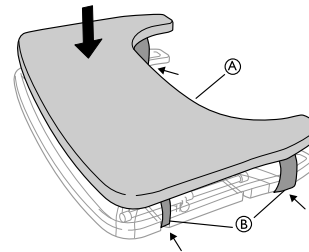
回転機能



1. つまみネジ (A) を緩めます。
2. テーブル (C) を横に回転させます。
3. つまみネジ (A) を締め直します。

4.9.4 テーブルクッションの追加

テーブル用のクッションは、腕や肘にとって柔らかな表面となるようテーブルに置くことができます。

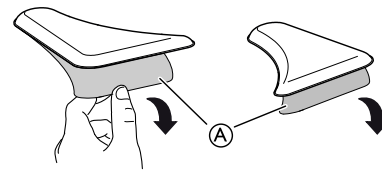


テーブル用のクッション (A) をテーブルの上に置いて、取り付けストラップ (B) をテーブルの周りに装着します。

4.9.5 肘用クッションの追加

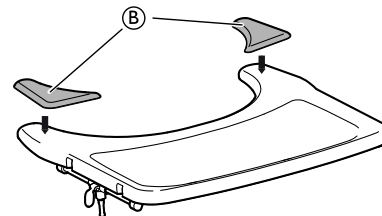
テーブルには、肘にとって柔らかな表面となるよう肘用クッションを装着することができます。

1.



肘パッドから保護シート (A) を外します。

2.



テーブルに肘パッド (B) を配置します。

4.10 ハーフトレイ



警告!

転倒/怪我の危険

- ハーフトレイは姿勢ベルトの代わりに使用してはなりません。



警告!

転倒/怪我の危険

- ハーフトレイで最も広い部分の先端に載せられる最大重量: 1.5 kg



注意!

不快感/軽度の打撲の危険性

- 車椅子を動かす場合、使用者の肘がハーフトレイの上に置かれていることを確認します。車椅子を動かすときに肘が突き出ていると、不快感または軽度の打撲の危険性があります。



注意!

指を挟む危険性

ハーフトレイの下部には指を挟む可能性がある機構があります。
- トレイを調整したり回転機能を使用するときは気を付けてください。

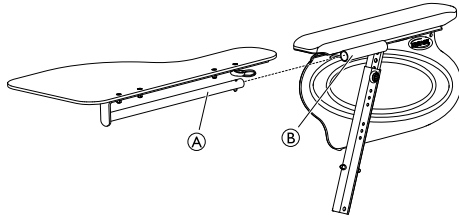


注意!
指を挟まれる、または軽い切り傷の危険性
- ハーフトレイが水平位置にある場合は車椅子から移乗しないでください。

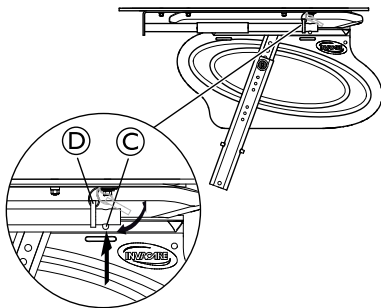
i ハーフトレイは、幅および回転の調節ができます。

4.10.1 ハーフトレイの取り付け

ハーフトレイの取り付け

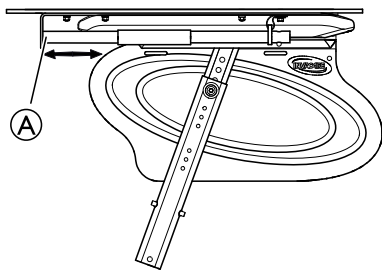


1. ハーフトレイ **A** のチューブをアームパッドの下の取付部 **B** に差し込みます。



2. ハンドピン **C** を押し、リング **D** をチューブ **A** に通します。
3. ハンドピン **C** を放します。

4.10.2 ハーフトレイの調節



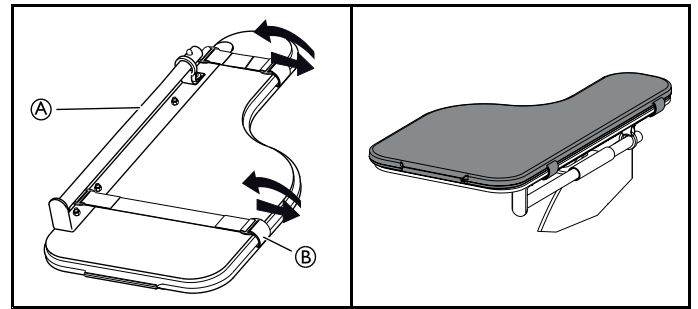
1. ハーフトレイ **A** を前後に滑らせて適切な奥行にします。



注意!
圧迫感の危険性
- ハーフトレイの奥行を調節する際、使用者の腹部を圧迫しないようにします。

4.10.3 ハーフトレイクッションの追加

ハーフトレイ用のクッションは、腕や肘にとって柔らかな表面となるようハーフトレイに置くことができます。

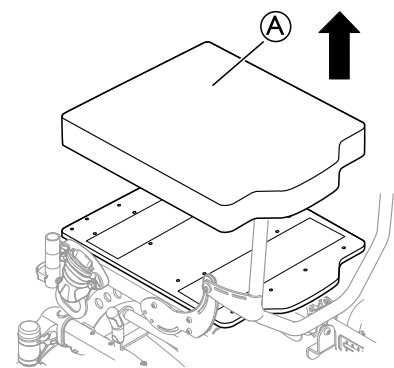


1. トレイにハーフトレイ **A** 用のクッションを配置します。
2. 取り付けストラップ **B** をプラスチック製ベルト通しおよびハーフトレイ **A** の周りに装着します。

4.11 シート高さ延長プレート

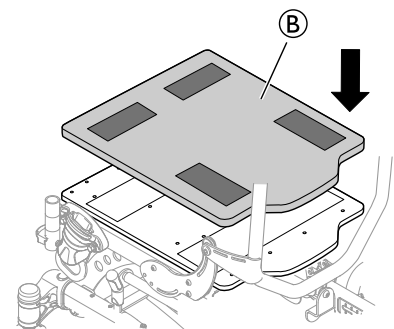
シート高さ延長プレートは高さを 2 cm 追加します。

- 1.



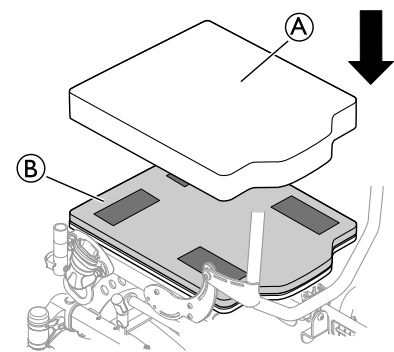
シートクッション **A** を外します。

- 2.



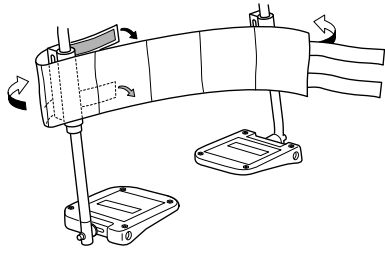
シートプレートの上に高さ延長プレート **B** を配置します。

- 3.



高さ延長プレート **B** の上にシートクッション **A** を戻します。

4.12 パッド付きカーフストラップ



1. カーフストラップをレッグレストに取り付けます。
2. レッグレストチューブの周りにエンドパーツを巻きます。
3. セルフグリップの部分を固定します。

i カーフストラップを適切な方法で使うため、両方のレッグレストを同じ角度にする必要があります。

i 使用者を適切にサポートするため、カーフストラップを緩めすぎないようにしてください。

4.13 フットレスト/フットプレート用カバー

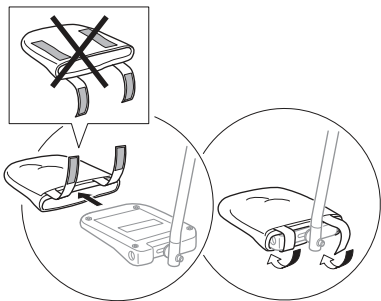


注意!

バランスを崩す危険

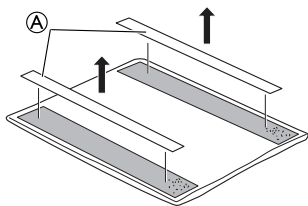
フットプレートを持ち上げた位置に固定する場合は、その前にカバーを外してください。

4.13.1 フットプレートカバーの取り付け

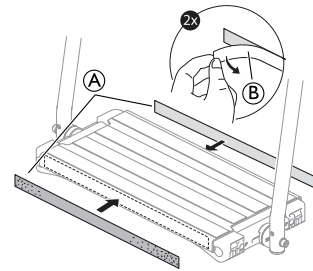


1. フットプレートカバーをフットプレートに被せま
2. フック式のベルトでカバーをフットプレートに固定します。

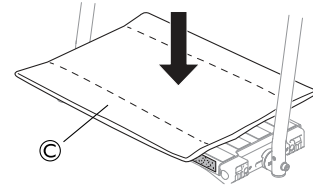
4.13.2 一体型フットレストへのカバーの取り付け



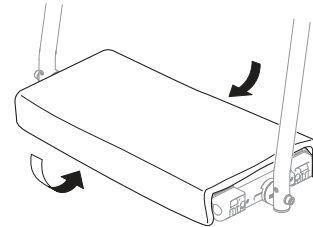
1. 糊の付いたマジックテープ **A** をカバーから外します。



2. 糊の付いたマジックテープ **A** から安全ペーパー **B** を外します。
3. マジックテープ **A** の糊の付いた部分をフットレストの前後に取り付けます。



4. カバー **C** を一体型フットレストの上に乗せます。



5. カバーのループ部分をフットレスト前後のマジックテープ部分に取り付けてカバーを固定します。

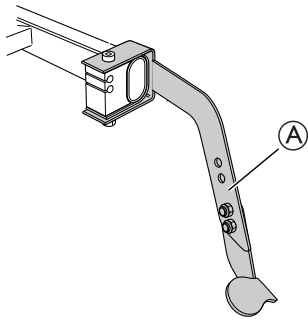
4.14 荷物収納ポケットの取り付け



シートおよびバックレストのセルフグリップの表面に荷物収納ポケットを取り付けます (図を参照)。

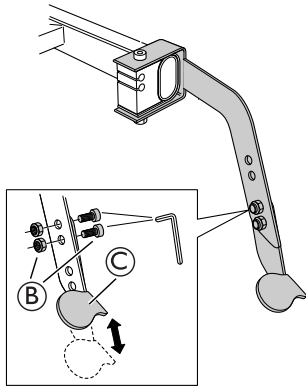
4.15 段差レバー

i このオプションは、一部の国では必須です。



車椅子を後ろに傾けるときをサポートとして、段差レバー(A)を使用します。

1. 段差レバーを足で下に押し下ろします。
2. 段差を登るには、車椅子を後ろに傾けます。



段差レバーの高さは調節可能です。

1. ネジとナット(B)を緩めて外します。
2. 段差レバーCの下部分を適切な高さに調節します。
3. ネジとナット(B)を締め付けます。

4.16 人工呼吸器用トレイ



警告!
床ずれ/圧痛

車椅子を傾けると、バックレストと人工呼吸器用トレイの間の距離が非常に狭くなります。

- 人工呼吸器用トレイで荷物を運びながら調整可能なバックレストを使用すると、バックレストを傾けた際に床ずれが発生する危険性があります。バックレストを傾けすぎないように注意してください。



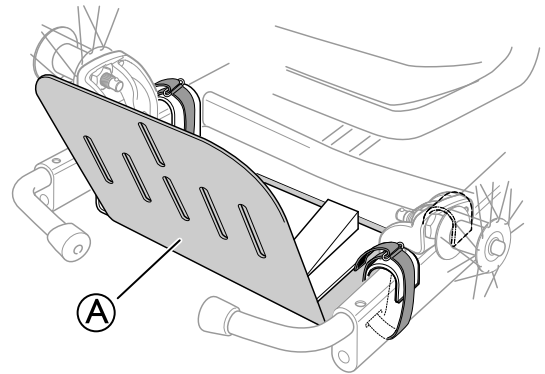
注意!
経度の打撲

- 人工呼吸器用トレイはかなり後ろに取り付けられていることに注意してください。車椅子を動かす際には、介助者の足がぶつかる危険性があります。



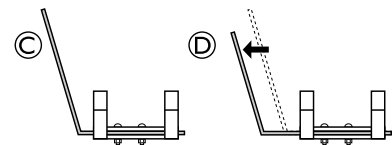
注意!
機器の損傷

- バックレストを傾ける際には、人工呼吸器用トレイに置かれた荷物に注意してください。ブレーキと傾斜機能のケーブルが挟まれていないことを確認してください。



人工呼吸器用トレイ(A)には、換気扇、酸素タンク、栄養補給ユニットなどのさまざまな付属品を固定できます。人工呼吸器用トレイはさまざまなモデルに対応できるように、奥行を45 mm、幅を120 mm調節できます。

i 最大荷重: 10 kg



人工呼吸器用トレイのメインプレートは奥行を大きくするため、180°回転できます。標準的な位置Cでは、奥行は小さく、トレイの背面は高くなります。2番目の位置Dでは、奥行は大きく、トレイの背面は低くなります。

i 人工呼吸器用トレイのメインプレートを回転させることで、奥行を70 mm延長することができます。

i 詳しくは、正規販売店までご連絡ください。

4.17 姿勢ベルト

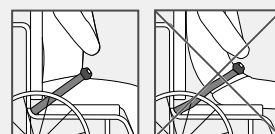
車椅子には姿勢ベルトを装着することができます。このベルトは、使用者が車椅子の下方に滑ったり、車椅子から落下するのを防ぎます。姿勢ベルトは、姿勢維持装置ではありません。



警告!
重傷 / 窒息の危険性

ベルトが緩むと使用者が滑り落ち、窒息の危険性が生じます。

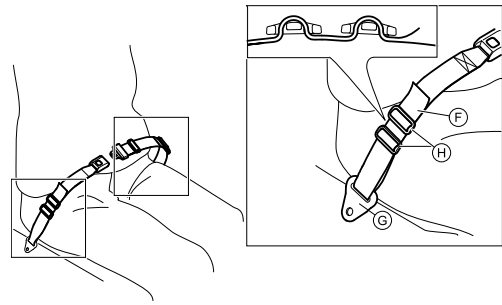
- 姿勢ベルトの取り付けは資格を持つ技士が行い、調節は車椅子を処方した医師が行ってください。
- 姿勢ベルトが骨盤の下部にきつく取り付けられていることを必ず確認してください。
- 姿勢ベルトを使用する際には毎回、正しく取り付けられていることを確認してください。シートやバックレストの角度、クッションを変更したり、衣類を着替えると、ベルトの装着状態に影響します。



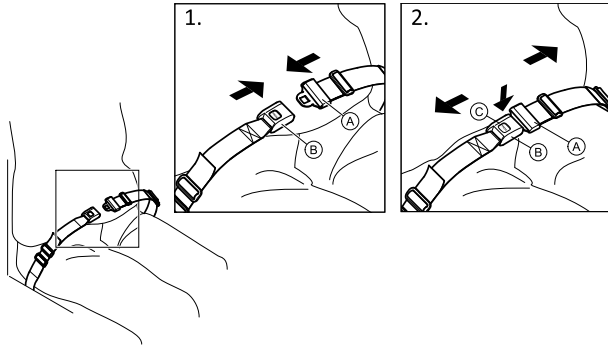
**警告!**
輸送中の重傷の危険性

車両内では、車椅子に乗った使用者を安全ベルト(3か所固定ベルト)で固定する必要があります。姿勢ベルト単体では、使用者の固定装置として不十分です。

- 車椅子使用者を車両に載せて運ぶ場合は、3か所固定安全ベルトの代わりではなく、補助として姿勢ベルトを使用してください。



1. ループ⑥を車椅子の固定具③、両方のプラスチック製ベルト通し④の順に通します。

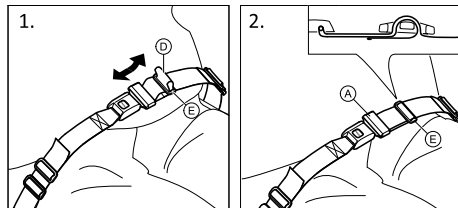
姿勢ベルトの開閉

使用者が腰をシートの奥までしっかり入れ、骨盤をできるだけまっすぐにし、シートの中央に座していることを確認してください。

1. 閉めるには、キャッチ①をベルト通し②に押し付けます。
2. 開くには、ボタン③を押し、キャッチ①をベルト通し②から引き出します。

長さの調節

i 身体とベルトの間にちょうど手のひらが入るスペースがあると、姿勢ベルトの長さは十分です。



1. 必要に応じて、ループ④の長さを調節します。
2. ループを④キャッチ①とプラスチック製ベルト通し⑤に通し、ループが平らになるまで引きます。

この調節が不十分な場合、姿勢ベルトの固定具への再取り付けが必要になることがあります。

姿勢ベルトを固定具に取り付ける**注意!**

- ベルトが緩まないよう、両方のプラスチック製ベルト通しにベルトを通してください。
- ベルト通しが中央になるよう、両側を均等に調節してください。
- ベルトが後輪のスポークに巻き込まれないよう確認してください。

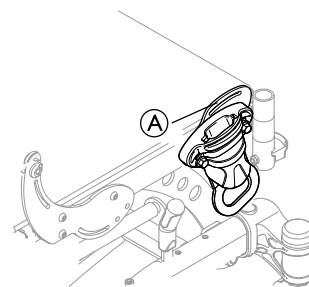
4.17.1 配置用姿勢ベルトの組み立て

i 車椅子に適用される規格に適合していることを示すCEマークが貼付された車椅子に、同じくCEマークが貼付された車椅子用ベルトを取り付けます。車椅子用ベルトの調節は車椅子を処方した医師が行い、取り付けは認定を受けた技士が行ってください。ただし、車椅子を車両内でシートとして使用する場合は、Invacare製の姿勢ベルトを認証を受けた乗員固定装置(3か所固定ベルト)の代わりではなく、必ずそれに加えて使用してください。

i 姿勢ベルトの目的は、使用者を適切に配置して、姿勢を整えることです。

i 太もも/膝を配置するためにベルトを使用する場合には、姿勢ベルトを前面取付ブラケットに取り付けてください。

i 太ももを配置するためにベルトを使用する場合には、姿勢ベルトをバックレスト取付ブラケットの下スロットに取り付けてください。

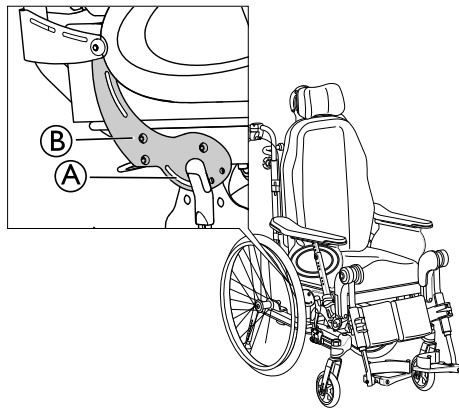
4.17.2 姿勢ベルトを前面取付部に組み立てる

膝を配置するために姿勢ベルトを使用する場合には、前面取付スロット①を使用できます。

**警告!**
怪我の危険性

- 車両で使用者を輸送中に、取付部①をシートベルトの代わりに使用することはできません。

4.17.3 姿勢ベルトを背面取付部に組み立てる



太ももを配置するために姿勢ベルトを使用する場合には、バックレスト取付部[®]の取付スロット[®]を使用できます。



警告! 怪我の危険性

- 車両で使用者を搬送中に、取付スロット[®]をシートベルトの代わりに使用することはできません。

4.18 ベルト類



警告! ベルトで締めつけられる危険性

- 車椅子を傾けたり、リクライニングにしたりすると、ベルトが移動し、使用者にとって危険な状態になる場合があります。
- 調節した後は必ずベルトが適切な位置にあることを確認してください。



警告! 安全上の危険性

- 車椅子用ベルト固定部とともに使用する車椅子用ベルトの取り付けは、経験豊富な臨床医が認定を受けた技士が行ってください。
- 体幹ベルトは必ず姿勢ベルトと併用し、姿勢ベルト着用後に取り付けます。



警告! すべり落ちる危険性

- 使用者は誤って車椅子からすべり落ちる危険があります。
- 体幹ベルトと姿勢ベルトは必ず併用します。



警告! 安全上の危険性

- 車両での輸送中に、車椅子用ベルトをシートベルトの代わりに使用することはできません。

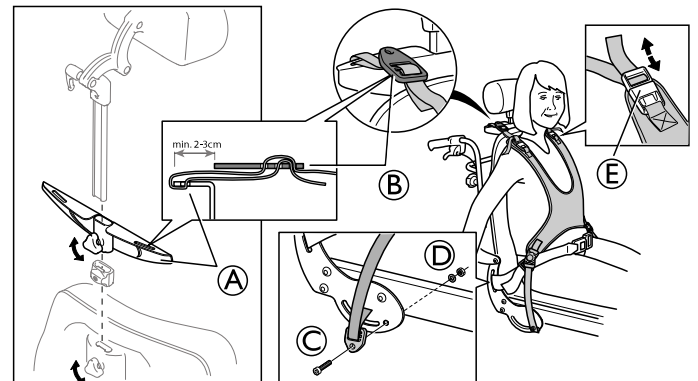


体幹ベルトを着用したとき、身体のどの部分も締めつけられないことを確認します。



車椅子に適用される規格に適合していることを示す CE マークが貼付された車椅子に、同じく CE マークが貼付された車椅子用ベルトを取り付けます。車椅子用ベルトの調節は車椅子を処方した医師が行い、取り付けは認定を受けた技士が行ってください。ただし、車椅子を車両に載せて運ぶ場合は、Invacare 製の姿勢ベルトを認証を受けた乗員固定装置 (3 か所固定ベルト) の代わりに、必ずそれに加えて使用してください。

4.18.1 ベルトの取り付け



1. つまみネジを緩め、ネックレストを取り外します。
2. ネックレストのバーに車椅子用ベルトの固定部[®]を取り付けます。
3. つまみネジを締め直します。



車椅子用ベルトは固定部[®]に取り付けます。

4. 固定部[®]とベルト通し[®]にベルトを通します。
5. ベルト取付部の小さな穴とフレームの穴にネジ[®]を通します。



上の図に示すように、ベルト取付部をフレームの外側から固定します。



道具：六角棒レンチ 5 mm

6. ワッシャーとナット[®]で固定します。



車椅子用ベルトは肩のストラップ[®]で調整することもできます。

5 セットアップ

5.1 安全性について



注意! 怪我の危険性

- 車椅子を使用する前に、8点検整備(45ページ)の章を参照して、概況と主な機能をご確認ください。

指定プロバイダーが、車椅子を使用可能な状態でお渡しします。担当のプロバイダーが主な機能について説明し、ニーズおよび要求を満たす車椅子であることを保証します。

軸の位置およびキャスターのサポートの調節は、資格を持つ技士が行う必要があります。


5.2 納品時の確認

荷物が破損していた場合は、速やかに運送会社に連絡してください。運送会社が商品を確認し、問題が解決するまで、梱包材も一緒に保存してください。

5.3 組み立て概要

車椅子が届いたら、まず、バックレストを取り付けます。製品によっては折りたたみ式のバックレストもあります。アームレストとレッグレストも取り付けます。組み立ては簡単で、道具は一切必要ありません。

5.4 バックレストの設置方法

 バックレストを起こす際はケーブルを挟まないよう気をつけてください。

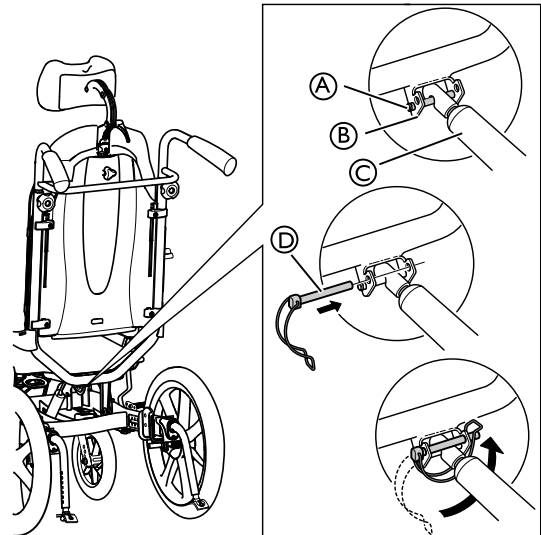


警告! 安全上の危険性

車椅子が崩れる可能性があります

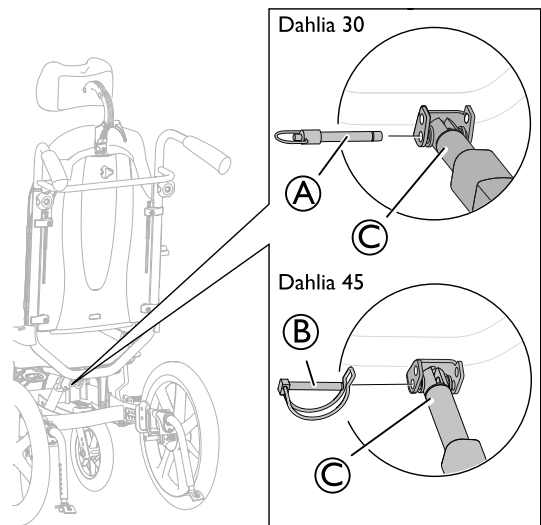
- 連結ピンと安全シャックル⑩を外した場合は、必ず元の位置に差し込み、固定してください。
- ロックシャックル/ループがしっかりロックされていることを確認します。

5.4.1 バックレストの取り付け - ガススプリング



1. バックレストが上向きの位置になるよう起こします。
2. ガススプリング⑨を取付ピン①に取り付けます。
3. 連結ピンと安全シャックル⑩を取付部②の上側の穴に差し込みます。
4. 取付部②の下で安全シャックルを折りたたんでロックし、もう一方のループを固定します。

5.4.2 安全シャックルの取り付け - 電子スプリング



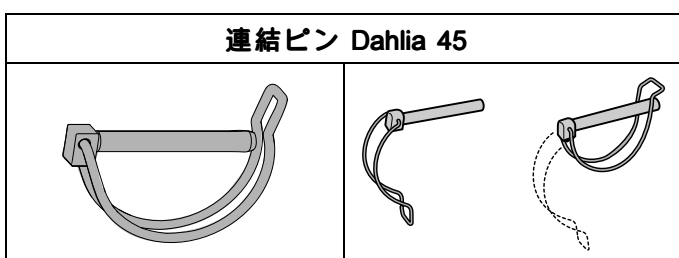
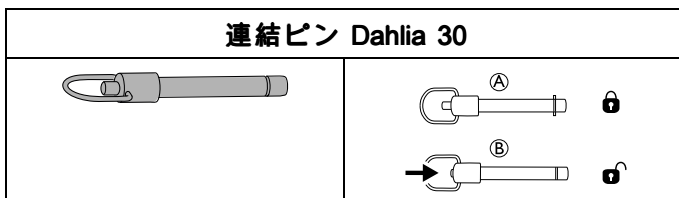
1. バックレストが上向きの位置になるよう起こします。
2. スプリングロッド③を取付部に取り付けます。
3. 連結ピン①または②をモデルに応じ、取付部の下側の穴に差し込みます。
4. 連結ピンをロックします。



警告!
電子版

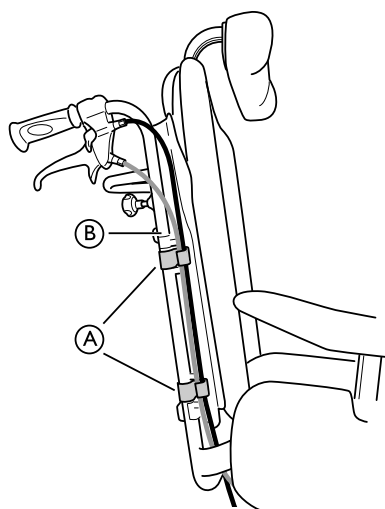
スプリング ロッドが誤ってその筐体から取り外された場合、バックレストが緩んでくる可能性があります。
 - バックレストにスプリングを取り付ける前に、スプリング ロッド ③ を最大限時計回りに回します。
 - 穴を合わせる場合、スプリング ロッド ③ を最大の半周だけ反時計回りに回します。

連結ピン / 安全シャックルのロック



5.5 ワイヤーの配置

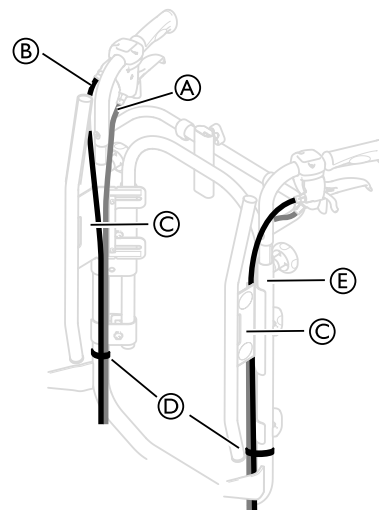
5.5.1 バックレストプレートのワイヤー



1. ワイヤーをバックレストパイプ ⑥ の外側に合わせます。
2. ワイヤーをホルダー/クリップ ⑤ に挟んで固定します。

i ワイヤーのたわんだ部分は折り曲げてシートの下に出しておきます。

5.5.2 張り調節可能なバックレスト付きのワイヤー

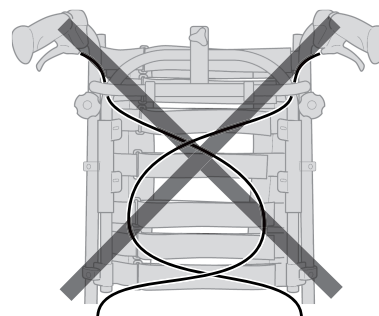


1. 上図に示すように、ワイヤー ⑤ および ⑥ を取り付けます。

! **ワイヤー損傷の危険性**
 - 補助ブレーキ用のケーブル ⑤ をバックレストパイプ内に入れることは重要です。

2. バックレスト/シートリクライン用のワイヤー ⑥ はバックレストパイプの外側に出しておきます。
3. どちらのワイヤーもバックレスト取付部 ③ の内側を通します。
4. ストラップ ④ を使用してワイヤーをバックレストパイプ ⑤ に取り付けます。

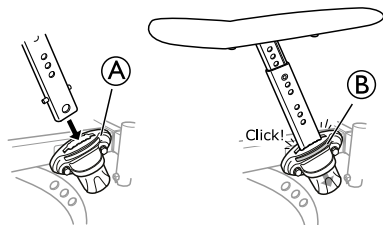
i ワイヤーのたわんだ部分は折り曲げてシートの下に出しておきます。



! **注意!**
ブレーキの効果が下がる危険性
 - ワイヤーをバックレスト上で交差させることはしないでください。

5.6 アームレストの挿入

! **警告!**
挟まれる危険性
 - 車椅子を傾けたり動かしたりする際には、アームレスト取付部と後輪の間の隙間に指を挟まないように注意してください。



1. アームレストをアームレスト取付部 ①に取り付けます。
2. アームレストを深く押し込み、アームレストがしっかり固定されたこと感触と音で確認してください。

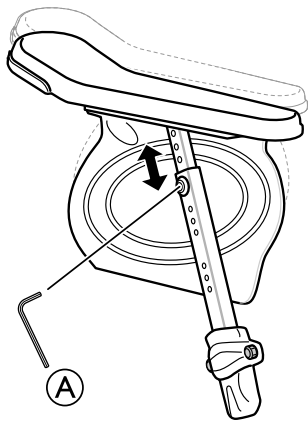
i アームレストは衝撃などで動いたり外れたりすることのないよう、オートロック式になっています。

3. アームレストを取り外す場合や、調節する場合には、オートロックボタン ②を押してロックを解除します。

！ 製品の損傷の危険性

- 車椅子にユーザー操作チルトが搭載されている場合は、アームレストを取り外す際に、ワイヤーが傾斜機能に挟まれたり引っ張られたりしていないことを確認してください。

5.7 アームレストの高さ調節



1. アームレストおよびサイドレストの高さを調節するには、選択したアームレストの種類に応じて、ボルトまたはつまみネジ ①を回します。
2. 適切な高さに調節します。
3. ボルト/つまみネジを締め直します。

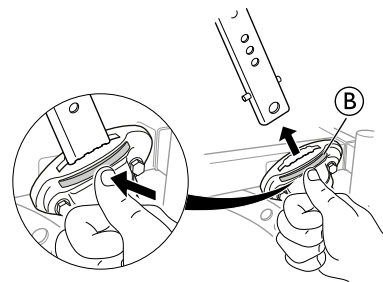


注意！ 指を挟む危険性

- アームレストの高さを調節するときには、アームパッド/サイドガードパッドとアームレスト取付部の間に指を挟まないように注意してください。

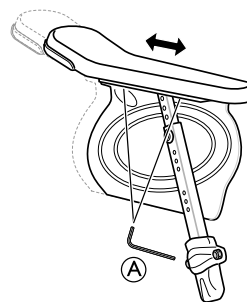


- 低いアームレストを使用したり、アームレストの高さを低く調節する場合は、車椅子を傾けたときに後輪と接触する可能性があります。
- 長いアームレスト (330 mm) は、「Ducktail」アームレストパッドでのみ使用できます。



i アームレストは衝撃などで動いたり外れたりすることのないよう、オートロック式になっています。アームレストを取り外す場合や、調節する場合には、アームレストのボタン ②を押してロックを解除します。

5.8 アームレスト/サイドレストの奥行調節



1. 選択したアームレストの種類に応じて、ボルトまたはつまみネジ ①を緩めます。
2. パッドまたはサイドレストを適切な位置に取り付けます。
3. ボルト/つまみネジを締め直します。



不適切な調節の危険性

- ネジを調節しているときに、アームレストに力がかからないように注意してください。

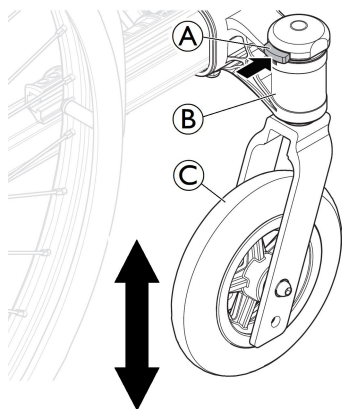
5.9 取り外し可能なキャスターの装着と取り外し (そのように装着可能な場合)



警告！ 転倒の危険性

前方キャスターのロック機構がしっかり装着されていないと、前方キャスターが使用中に緩まる可能性があります。これにより転倒する可能性があります。

- 前方キャスターを装着するときには、前方キャスターがしっかりとハマっていることを必ずご確認ください。



1. クイックリリースボタン①を押し続けします。
2. 後輪軸②を後輪接続部③に差し込みます。
3. 後輪を外側に引っ張り、しっかり固定されていることを確認します。



警告!
怪我の危険性

– 後輪が正しい位置にきちんと固定されていることを確認してください。クイックリリースボタン①が無効化されている場合、後輪を外すことはできません。

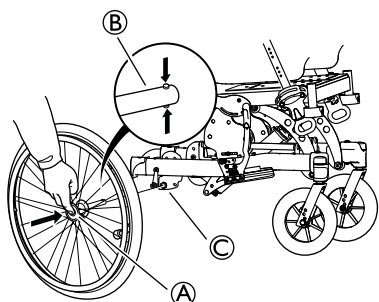
前方キャストの装着

1. 片手で上向きに車椅子を支えます。
2. もう一方の手で、キャスト軸をキャスト軸ブラケット②に止まるまで押し込みます。
3. カチッと言う音がすることを確認し、前方キャスト③がしっかり装着されているようにします。

前方キャストの取り外し

1. 片手で上向きに車椅子を支えます。
2. もう一方の手で、親指を使ってキャスト軸ブラケット②の頂点のロック機構①を押します。
3. 押したまま、キャスト軸ブラケット②から前方キャスト③を引き抜きます。

5.10 後輪の取り付け



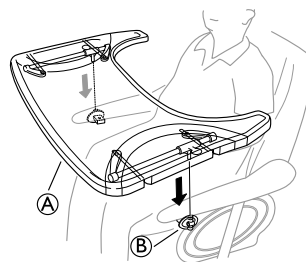
5.11 角度調整可能なレッグレスト

回転式、角度調節可能なレッグレストの取り付けまた取り外しに関しては、以下を参照してください。
→ 3.8.2 回転式、角度調整可能なレッグレスト (16 ページ)

5.12 固定式レッグレスト

回転式、固定式レッグレストの取り付けまた取り外しに関しては、以下を参照してください。
→ 3.8.1 回転式レッグレスト (16 ページ)

5.13 テーブルの取り付け



テーブル取付部②にテーブル①を取り付けます。

6 車椅子の使い方

6.1 一般的な警告事項 - 使用



警告! 転倒の危険性

使用者が車椅子から転倒する
- 足を使って車椅子を操作する際には、重心が前方に移動することに注意してください。これにより、車椅子の安定性が変化します。



注意! すべり落ちる危険性

- 使用者に付添人がいない場合、シートは平らにするか、後ろに傾ける必要があります。

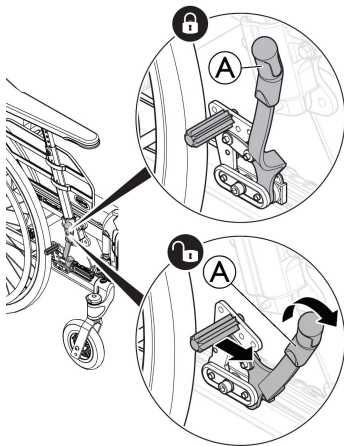


注意! すべり落ちる危険性

- シートの高さが非常に低いか、足を使って車椅子を操作する場合、レッグレストを取り外すことができます。その場合、すべり落ちる危険があることにご注意ください。

6.2 ブレーキ

6.2.1 使用者が調節できるブレーキの使用



i 最初にタイヤの空気圧を確認してください (適性空気圧はタイヤの側面に表示されています)。

i 使用者が操作するブレーキは、車椅子が停止しているときに使います。移動中の減速には使えません。

- レバー A を後ろ (あなたの方に) に引くとブレーキがかかります。
- レバー A を前に倒すとブレーキが解除されます。



注意! 指を挟む危険性

- ブレーキの金具と後輪の間に指を挟まないように注意してください

6.2.2 片手ブレーキの使用

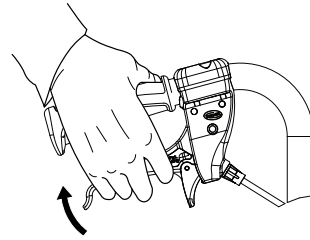
車椅子には、使用者が調節する標準のブレーキの代わりに、片手ブレーキを取り付けできます。片手ブレーキの操作方法は使用者が調節する標準のブレーキと同じですが、ブレーキハンドルで両輪に同時にブレーキがかかる点が異なります。片手ブレーキは車椅子の左右どちらの取り付けにも対応しています。

6.2.3 介助者が調節できるブレーキの使用

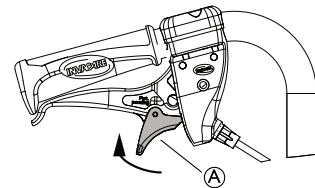


警告! ブレーキの効果が下がる危険性

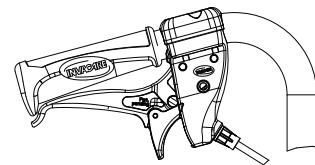
- ブレーキを不適切に設置または使用すると、十分な制動効果が得られません。



- 移動中にブレーキをかける方法：ハンドグリップとハンドブレーキを一緒に握るとブレーキがかかります。



- ブレーキをロックする方法：ハンドグリップとハンドブレーキを一緒に握り、キャッチロック A をかけます。
- ハンドグリップを放します。



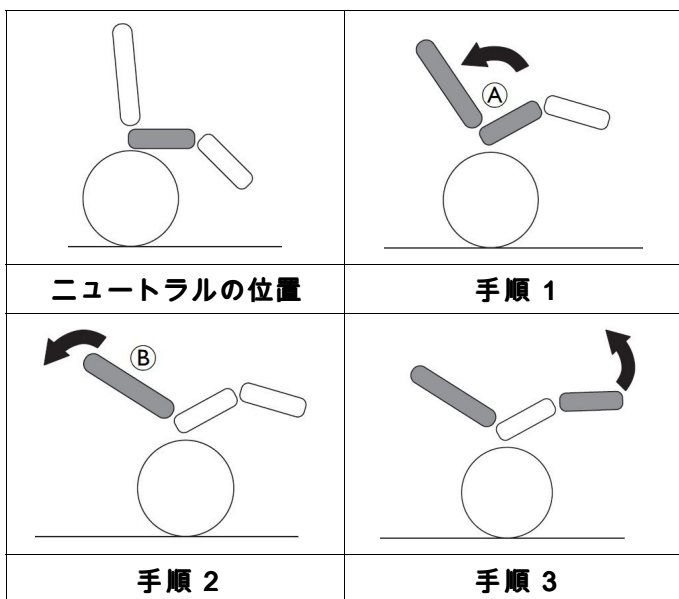
- ブレーキを解除する方法：ハンドグリップとキャッチロックを一緒に握ると、ブレーキが自動的に解除されます。

i ブレーキの効き目が弱い場合や低下した場合は、指定機関にお問い合わせください。

6.3 傾斜/リクライニング機能の使用

最適な配置になるよう、傾斜およびリクライニング機能を使用するときは次の手順に従ってください。チルトおよび傾斜機能の操作方法の詳細については、「傾斜角度とバックレスト角度の手動調節」および「傾斜角度とバックレスト角度の電動調節」のセクションを参照してください。

直立位置からの傾斜/リクライニング



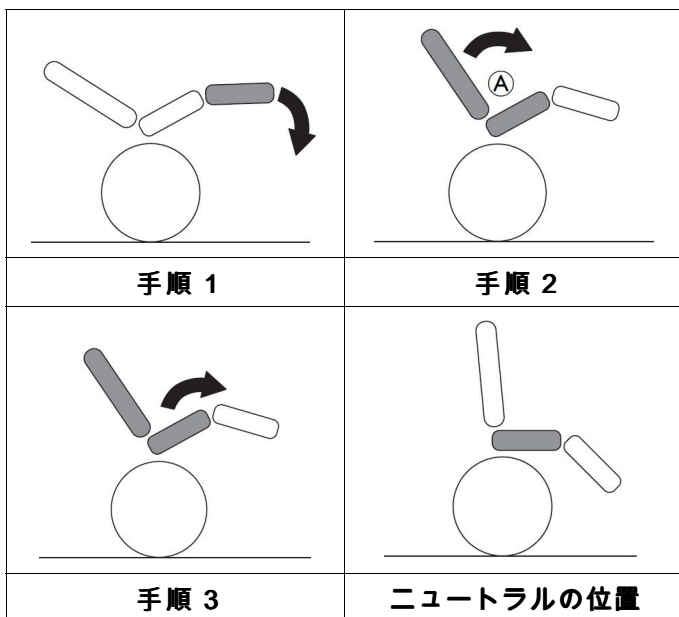
1. 車椅子を傾けます。
 - 使用者が後方にスライドし、ニュートラルの骨盤位置 ① が支えられます。
2. バックレストをリクライニングさせます
 - お尻が後方位置 ② にスライドしても、体重が背中に移動するので良い姿勢になります。
3. レッグレストの角度を調節します。



注意!
使用者の圧迫感

骨盤が引っ張られ、使用者が車椅子の下方にスライドする可能性があります。
- 太ももの裏側 (ハムストリング) が、レッグレストの角度調節時にリラックスした状態でニュートラルの位置に来るようにします。

傾斜/リクライニング位置から起こす



1. レッグレストを元の位置に戻します。
2. バックレストをリクライニング位置から起こします。
 - 傾斜前にバックレストを起こすと、ニュートラルの骨盤位置 ① が保たれます。
3. 傾斜位置を起こします。

6.4 車椅子の乗り降り



警告!
転倒の危険性

乗り移りの際に転倒する危険性が高いです。
- 介助なしでの乗り降りは、介助なしでも体力的問題のない方のみが行ってください。
- 乗り移る際には、できるだけ深く座シートに腰掛けてください。これによりクッションの破損や車椅子の前方への転倒を防ぎます。
- キャスターが両方ともまっすぐ前方を向いているかご確認ください。



警告!
転倒の危険性

フットレストに体重をかけると、車椅子が前方に転倒するおそれがあります。
- 車椅子に乗るとき、降りるときには、フットレストに体重をかけないでください。



注意!

ブレーキを解除したりブレーキが壊れたりすると、車椅子の走行を止められなくなることがあります。
- 車椅子に乗るとき、降りるときに、ブレーキに体重をかけないようにしてください。



重要!

タイヤガードやアームレストが壊れることがあります。
- 車椅子に乗るとき、降りるときには、タイヤガードやアームレストに腰掛けしないでください。



1. 車椅子から椅子に移乗するときには、車椅子をできるだけ椅子に近づけます。
2. パーキングブレーキを有効にします。
3. アームレストを外すか、邪魔にならないように上に向けます。
4. レッグレストを外すか、外側に向けます。
5. 足で地面を踏みます。
6. 車椅子を掴み、必要であれば近くにある固定されたものを掴みます。
7. 椅子にゆっくり移動します。

6.5 車椅子の運転と方向転換

車椅子の運転と方向転換はハンドリムで行います。



注意!

バックレストに重いものをぶら下げると、車椅子の重心が変わります。
- 運転スタイルを重心に応じて変えてください。

6.6 階段や段差の昇降



警告!

転倒の危険性

階段昇降のときにバランスを失って車椅子が転倒することがあります。
- 階段や段差の昇り降りは必ずゆっくりと慎重に行ってください。
- 高さが 15 cm を超える階段は昇り降りしないでください。



注意!

転倒防止装置を起動させると、車椅子が後方に転倒することを防ぎます。
- 階段や段差を昇り降りする前には、転倒防止装置を停止させてください。



警告!

介助者のけが怪我や製品への損傷の危険性

体重の重い使用者を乗せた状態で車椅子を傾斜させると、介助者の背中や車椅子を損傷する可能性があります。
- 傾斜操作を行う前に、体重の重い使用者を乗せた車椅子を安全に操作できることを確認してください。

介護者と階段を降りましょう。



1. 車椅子を段差の真上に移動してハンドリムを持ちます。
2. 介助者は両方のハンドグリップを握り、強く下に押し、車椅子を後方に傾けます。これにより、車椅子の前輪が地面から持ち上がります。
3. 次に、車椅子をこの位置に留めたまま押し、階段を慎重に降り、前輪が地面に着くまで前方に傾けます。

介護者と階段を上りましょう。



警告!

重傷の危険性

階段や段差を頻繁に昇ると、車椅子のバックレストが予想より早く疲労破壊する可能性があります。使用者が車椅子から転がり出ることがあります。
- 傾斜操作を行う前に、使用者を乗せた車椅子を安全に操作できることを確認してください。

1. 後輪が段差に触れるまで車椅子を後方に動かします。
2. 介助者は、両方のハンドグリップを握り、強く下に押し、車椅子を後方に傾けます。これにより、車椅子の前輪が地面から持ち上がります。次に前輪が地面に着くまで後輪を段差の上に引き上げます。

6.7 階段昇降



警告!

転倒の危険性

階段昇降のときにバランスを失って車椅子が転倒することがあります。
- 1段以上の階段の昇り降りは、必ず2名の介助者で行うようにしてください。



1. 上図に示すように、階段を1段ずつ昇り降りすることができます。最初の介助者は車椅子の後ろに立ち、ハンドグリップを握みます。二人目の介助者は前方のフレームの固定部分を持ち、前から車椅子を安定させます。

6.8 斜面や坂道の昇り降り



警告!

車椅子のコントロール不能状態による危険性

坂道や勾配を車椅子で昇り降りすると、車椅子が後方、前方、または横に転倒する可能性があります。
- 長い坂道に差しかかったときは、必ず介助者が車椅子の後ろにいるようにしてください。
- 横に傾いた坂道は避けてください。
- 角度が7度以上の坂道は避けてください。
- 坂道で方向転換するときは、急に押したり引いたりしないでください。

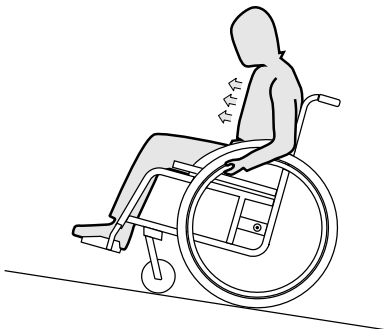
**注意!**

傾斜の緩い坂道でも、ハンドリムでコントロールしないと車椅子が暴走する可能性があります。

- 車椅子を傾斜地に停車するときには、パーキングブレーキを使用してください。

坂道を昇るとき

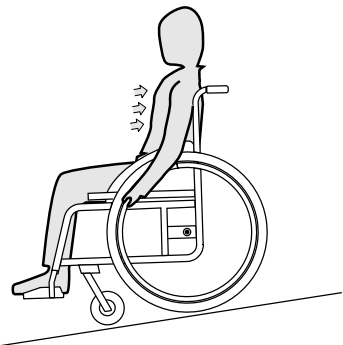
坂道を昇るときはある程度の勢いをつけて、その勢いを保ちながら同時に方向を制御する必要があります。



1. 上半身を前かがみにし、両方のハンドリムを素早く、力強く動かして車椅子を進めます。

坂道を降りるとき

坂道を降りるときは、方向と、特にスピードをコントロールすることが重要です。



1. 後ろにもたれ、ハンドリムが両手を通過するのを気をつけて見守ります。いつでもハンドリムを握って車椅子を停止できる状態にしておきます。

**注意!****手の火傷の危険性。**

ブレーキを長時間かけていると、ハンドリムにたくさんの摩擦熱が発生します（特に滑り止めハンドリム）。

- 適切な手袋をはめてください。

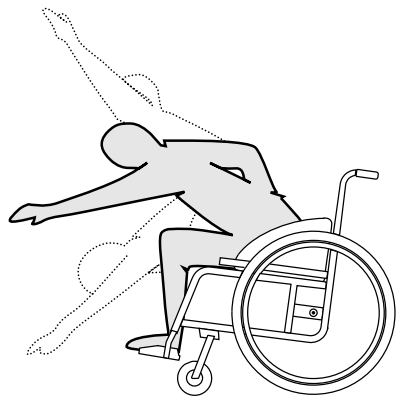
6.9 座ったときの安定性とバランス

日常活動や行動によっては、車椅子から前かがみになったり、横や後ろに傾く必要があります。これにより、車椅子の安定性が大きな影響を受けます。常にバランスを保つためには次のように行ってください。

前かがみになるとき**警告!****転がり出る危険性**

車椅子に乗りながら前かがみになると、車椅子から転がり出るおそれがあります。

- 前にかがみすぎないようにしてください。また、ものを取ろうとして前方に移動しないでください。
- 床からものを拾おうとして膝の間で前かがみにならないでください。

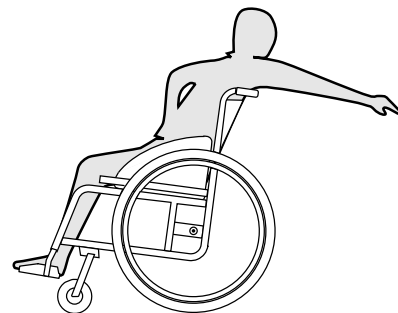


1. 車椅子の前輪を前向きにします。（前輪を前向きにするには車椅子を前方に少し動かし、また戻します。）
2. 両方のパーキングブレーキをかけます。
3. 前かがみになるときは、上半身が前輪上に留まるようにしなければなりません。

後ろに傾くとき**警告!****転がり出る危険性**

後ろに傾きすぎると、車椅子が転倒するおそれがあります。

- バックレストの外側に身を乗り出さないようにしてください。
- 転倒防止装置をご使用ください。



1. 車椅子の前輪を前向きにします。(前輪を前向きにするには車椅子を前方に少し動かし、また戻します。)
2. パーキングブレーキをかけないでください。
3. 後ろに傾くときは、座位を変えなければならないほど傾かないようにしてください。

7 輸送 (移動)

7.1 安全性について



警告!
車椅子が正しく固定されていない場合の怪我の危険性

事故が発生したり、ブレーキ操作を行った場合、車椅子の部品が飛散し、重傷を負うおそれがあります。

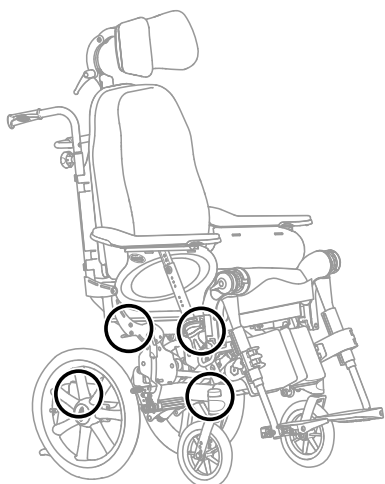
- 車椅子を輸送する際には、必ず後輪を外してください。
- 輸送中に緩むのを防ぐため、車椅子のすべての部品を輸送手段に応じた方法できちんと固定してください。



重要!
過度の摩耗や擦り傷は、耐荷重部品の強度に影響することがあります。

- 車輪を固定せずに研磨面で車椅子を引っ張らないでください (タールマックの上でフレームを引っ張るなど) 。

7.2 車椅子を持ち上げる方法

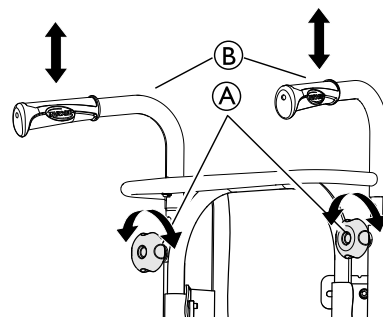


1. 車椅子を持ち上げる際には、必ずフレーム (図に示す部分) をしっかり握って持ち上げます。
2. 決して取り外し可能なアームレストやフットレストをつかんで持ち上げないでください。
3. バックレストとハンドグリップがしっかり固定されていることを確認してください。
4. 安全にお使いいただくための指示と操作方法に関する章をよくお読みください。

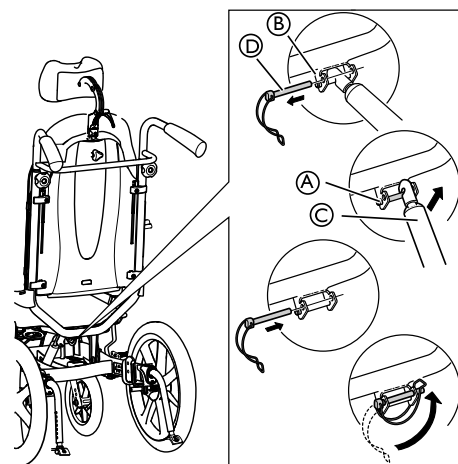
7.3 輸送のための分解

車椅子を輸送するときには本製品を分解します。分解は簡単です。

7.3.1 バックレスト



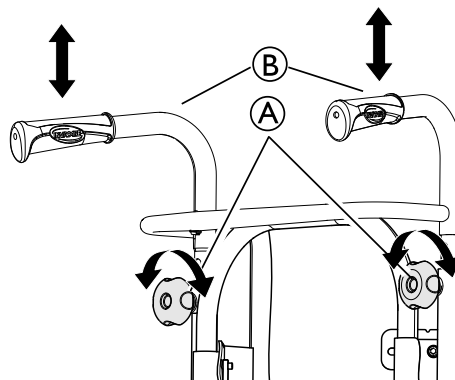
1. バックレストクッションを外します。
2. つまみネジ A を緩め、ハンドグリップ B を一番下まで下げます。



3. 安全シャックル D を取付部 B から丁寧に外します。
4. バックレストをゆっくりと前方に押しします。
5. ガススプリング C を持ち上げ、ピン A から外します。
6. バックレストを折りたたみ、シートの上に置きます。
7. 安全シャックル D を取付部 B に戻し、輸送用の位置にロックします。

i バックレストを折りたたむ際はケーブルに気をつけてください。

7.3.2 ハンドグリップ



1. 2 個のつまみネジ A を緩めます。
2. ハンドグリップ B の高さは、ハンドグリップを上げ下げするだけで簡単に調節できます。

7.3.3 角度調整可能なレッグレスト

回転式、角度調節可能なレッグレストの取り付けまた取り外しに関しては、以下を参照してください。

→ 3.8.2 回転式、角度調整可能なレッグレスト (16 ページ)

7.3.4 固定式レッグレスト

回転式、固定式レッグレストの取り付けまた取り外しに関しては、以下を参照してください。

→ 3.8.1 回転式レッグレスト (16 ページ)

7.4 乗員がいない状態での本移動機器の輸送



注意! 怪我の危険性

- 輸送車両中で移動機器を固定できない場合、Invacare はその車両で輸送することをお勧めしません。

あなたの移動機器を輸送する際に、車両、鉄道、航空機など何の制限もない場合があります。しかし、各輸送企業には特定の輸送手段を規制または禁止する可能性があるガイドラインがあります。各個人的なケースについて輸送企業に相談してください。

- Invacare は、輸送車両の床に本移動機器を固定することを強く推奨します。

7.5 使用者を乗せたまま車椅子を輸送する方法

車椅子が正しく固定され、以下の規制を満たしたとしても、衝突や急停止によって乗客が怪我を負う場合があります。このため、Invacare は、車両の座席に車椅子使用者を移乗することを強く推奨します。Invacare Corporation の事前の書面による同意がない場合、車椅子の要素 (構造、フレーム、部品) を変更したり、置き換えたりしないでください。本車椅子は、ISO 7176-19 の要求事項 (前方からの衝撃) に準拠した試験に合格しています。



警告! 重傷または死亡の危険性

車椅子を車両内の座席として使用するには、最低バックレスト高は 500 mm 以上にしてください。

車椅子使用者を車椅子に乗せたまま輸送するには、固定装置を車両内に取り付けてください。車椅子の固定装置および座る人の固定装置は、ISO 10542-2 に準拠し、認証を受けた製品を使用してください。認証を受けた互換性を持つ固定装置を入手し、取り付けけるための詳細については現地の Invacare の認定担当者または担当のプロバイダーへお問い合わせください。



警告!

何らかの理由で、車椅子使用者を車両内の座席に移乗させることができない場合、以下の手順と規制を守れるのであれば、車椅子を車両内でシートとして使用できます。こうした目的のため、輸送キット (オプション) を車椅子に取り付けなければなりません。

- 車両内では固定装置を使用し、車椅子を 4 か所で固定してください。
- 使用者は乗員固定装置を着用し、身体を 3 か所で固定してください。
- 使用者は車椅子の姿勢ベルトでも保護されなければなりません。



警告!

安全固定装置は、車椅子使用者の体重が 22 kg 以上の場合にのみ使用してください (ISO-7176-19)。

- 使用者の体重が 22 kg 未満の場合は、車椅子を車両内の座席として使用しないでください。



警告!

- 輸送前、輸送者に連絡を取り、下記の必要な機器が準備されているか確認します。

- 車椅子および使用者の周囲に十分なフリースペースがあり、使用者が他の乗客、車両のパッドのない部品、車椅子のオプションまたは固定装置のアンカー部に接触しないことを確認します。



警告!

- 車椅子を固定する部分に損傷がなく、パークキングブレーキが完全に機能することを確認します。

- 輸送時、耐パンクタイヤを使用してタイヤ圧低下によるブレーキの故障を避けることを推奨します。



警告!

衝突や急停止の際に緩んだ車椅子の部品やオプションによって怪我や損傷が生じる場合があります。

- すべての取り外し可能または着脱式の部品やオプションは車椅子から取り外し、車両内でしっかりと保管するようにします。
- コントロールボックスとの接続からハンドコントロール (電子版限定) を解除し、車両内でしっかりと保管するようにします。
- 事故、衝突などを受けた後は、必ず認定を受けた技士が車椅子を確認するようにしてください。



重要!

- 固定装置に同梱されている取扱説明書を参照してください。
- 以下の図は、固定装置の供給業者によって異なる場合があります。



車椅子の構成 (シート幅や深さ、ホイールベース) の選択は機動性や車両へのアクセスに影響を与えます。

車椅子と車椅子に座る人の固定

・ バックレストおよびシートの角度 :

- i** 使用者を乗せたまま車両で車椅子を輸送する場合、バックレストおよびシートの推奨される角度は以下のとおりです:
- Dahlia 規格: バックレスト 4° ~ 7°、シート 4°。
 - 16" 車輪を装着した Dahlia 45: バックレスト 12°、シート 10°。

・ ランプとスロープ :



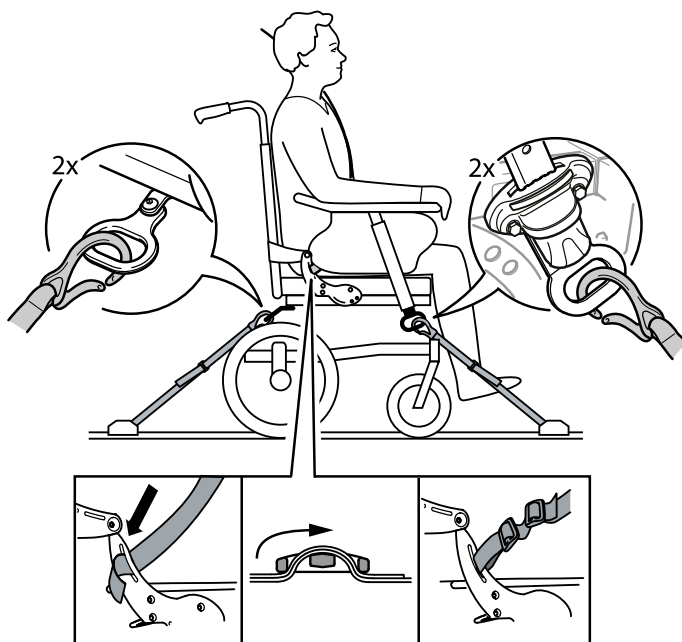
警告! 怪我の危険性

車椅子は、誤って制御不能になり、前進/後退する可能性があります。
- 車椅子をランプまたはスロープの上/下に搬送する際には、必ず使用者に付き添ってください。



このため、Invacareは、姿勢ベルトが装着された車両に車椅子使用者を移乗することを強く推奨します。

・ 固定装置を使用し、車椅子を4か所で固定する方法



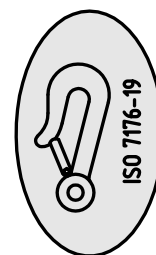
警告!

- 使用者を車椅子に乗せたまま、使用者が車両の進行方向を向くようにしてください。
- 車椅子のパーキングブレーキをかけてください。
- 転倒防止装置を起動します。

固定装置のベルトで車椅子を固定する位置には、必ずスナップフックの記号を貼付してください(下記の図および2.4 製品のラベルと記号(8 ページ)のセクションを参照してください)。

1. 固定装置の4か所ある前部、後部ベルトを使用し、車椅子を車両に取り付けられたレールに固定します。4か所固定装置に同梱されている取扱説明書を参照してください。

前方でのスナップフックで固定する位置 :



1. 上の図に示したように、前部輸送リングにスナップフックを取り付けます(取付ラベル位置を参照)。
2. 前部ベルトをレールシステムに取り付けます。シートベルト製造業者の説明書に示された最善の推奨手順を参照してください。
3. パーキングブレーキを解除し、車椅子をバックさせ、固定ベルトの張りを強めます。
4. パーキングブレーキを再度有効にします。

後方でのスナップフックで固定する位置 :

1. 上の図に示したように、後部輸送リングにスナップフックを取り付けます(取付ラベル位置を参照)。
2. 後部ベルトをレールシステムに取り付けます。シートベルト製造業者の説明書に示された最善の推奨手順を参照してください。
3. ベルトを締めます。



重要!

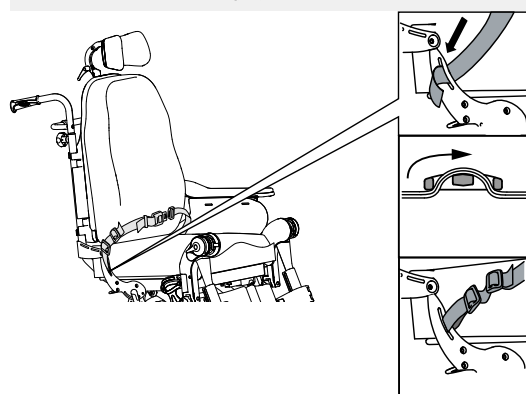
- スナップフックを耐スリップ材で覆い、軸上で横滑りしないことを確認します。

姿勢ベルトの取り付け



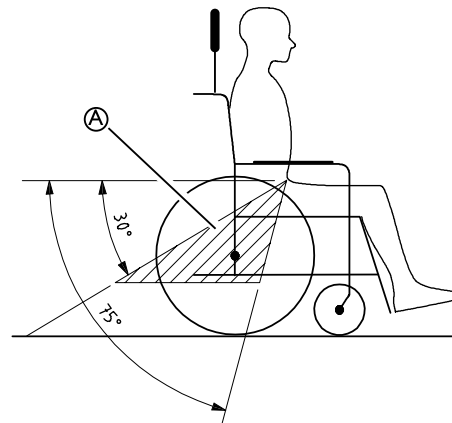
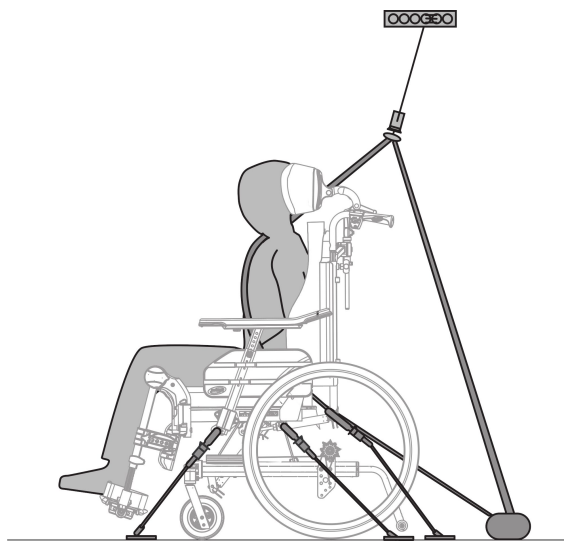
警告!

姿勢ベルトを認証を受けた乗員固定装置(3か所固定ベルト)の代わりではなく、必ずそれに加えて使用してください。



1. 姿勢ベルトを調整して車椅子に乗っている人にフィットさせてください。セクション 4.17 姿勢ベルト(29 ページ)を参照。

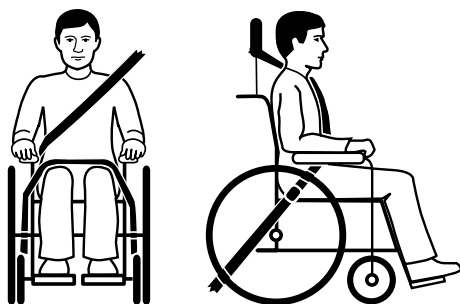
固定装置を使用し、車椅子に座る乗員を3か所で固定する方法



重要!
上記の図は、車椅子と固定装置の供給業者によって異なる場合があります。

警告!

- 3か所乗員固定装置はできるだけきつく、ただし圧迫感を与えない程度に締めつけます。
- 3か所乗員固定装置がアームレスト、車輪などの車椅子の部品に引っかかり、身体との間に隙間ができないようにします。
- 使用者の固定装置が使用者からアンカー一部まで正しく通っており、車両、車椅子、座席またはオプション部品のあらゆる部分と干渉していないことを確認します。
- ベルトが車椅子に座る人の骨盤にぴったり合っており、腹部にすり上がらないことを確認します。
- 使用者が助けを受けずに解除機構に手が届くことを確認します。



1. 車両のシートベルトはできるだけきつく、ただし圧迫感を与えない程度に締めつけます。図に示すように、シートベルトの上部が使用者の肩を固定するようにします。シートベルトはねじれがないように着用してください。

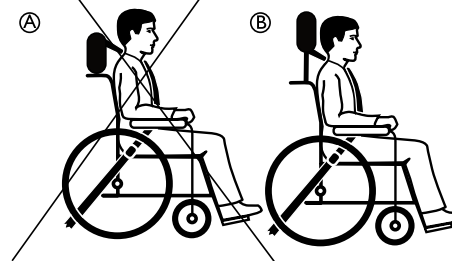
i シートベルトはねじれがないように着用してください。

重要!
3ヶ所ある乗員固定装置の骨盤ベルトは骨盤を固定するように着用し、ベルトが、水平方向となす角度30°~75°の範囲内(A)にくるようにします。範囲内の角度はできるだけ大きくしますが、決して75°を超えないよう、気をつけてください。



i シートベルトの間違った着用方法

2. 3か所固定シートベルトがアームレスト、車輪などの車椅子の部品に引っかかり、身体との間に隙間ができないように注意してください。



(A) ネックレストの間違った着用方法

(B) ネックレストの正しい着用方法

3. 移動中は必ずネックレストを使用し、図に示すように調節します。

8 点検整備

8.1 安全性について



警告!

素材によっては、時間と共に自然に劣化します。それによって車椅子部品の損傷に繋がる可能性があります。

- 車椅子は少なくとも年に1回、また長期間使用されていなかった場合には、資格を持つ技士による点検が必要です。



返品時の梱包

輸送中の損傷を避けるために、車椅子は適切な梱包で指定プロバイダーに配送されなければなりません。

8.2 日々のお手入れ

以下に示す部品が車椅子に正確に取り付けられていることを確認してください。

- ・ 車輪
- ・ バックレスト
- ・ 転倒防止装置
- ・ ハンドグリップ
- ・ フットレスト

8.3 点検整備作業

安全で信頼できる操作を可能にするには、以下に示す目視確認と点検整備を定期的に行うか、または他の人に依頼してください。

	週1回	月1回	年1回
タイヤ空気圧の確認	x		
キャスター及び/又は後輪が正しい位置にあるか確認	x		
姿勢ベルトの確認	x		
リクライニングと傾斜機構の確認		x	
キャスターの確認		x	
ボルトの確認		x	
スポークの確認		x	
パーキングブレーキの確認		x	
認定を受けた技士による車椅子の確認			x

全体的な目視確認

1. 車椅子に緩んだ部品、亀裂、その他の欠陥がないかを確認します。
2. 問題が見つかったら、車椅子の使用を直ちに中止し、指定プロバイダーへ連絡してください。

タイヤ空気圧の確認

1. タイヤの空気圧をご確認ください（詳しくは「タイヤ」章を参照）。
2. 所要圧力になるまでタイヤに空気を入れます。
3. 同時にタイヤトレッドも確認します。
4. 必要であればタイヤを交換します。

キャスター及び/又は後輪が正しい位置にあるか確認

1. キャスター及び/又は後輪を引っ張り、取り外し可能な車軸が正しい位置にあるか確認します。引っ張ってもキャスターや車輪が外れるべきではありません。
2. キャスター及び/又は後輪がしっかりとハマっていない場合は汚れや溜まったものを取り除きます。問題が解決しない場合は、認定を受けた技士に取り外し可能な車軸を装着し直してもらいます。

姿勢ベルトの確認

1. 姿勢ベルトが正しく調節されていることを確認します。



重要!

- 緩んだ姿勢ベルトは、指定プロバイダーが調節しなければなりません。
- 損傷した姿勢ベルトは、認定を受けた技士が交換します。

リクライニングと傾斜機構の確認

1. リクライニングと傾斜機構は簡単に操作できることを確認。

キャスターの確認

1. キャスターがスムーズに動くことを確認します。
2. 汚れや髪の毛があればキャスターベアリングから取り除きます。
3. 故障や摩耗したキャスターは、認定を受けた技士が交換する必要があります。

ボルトの確認

ボルトは常時使用することにより緩むことがあります。

1. (フットレスト、シートカバー、サイド、バックレスト、フレーム、シートモジュールの) ボルトがきちんと締まっていることを確認します。
2. 緩んでいるボルトがあれば、適切なトルクで締め直します。このため、インターネットでサービスマニュアルをご参照ください (www.invacare.eu.com) 。



重要!

- 緩み止め機構付きネジ・ナットや緩み止め接着剤が接続部のいくつかで使用されています。これらを緩めた場合は、新しい緩み止め機構付きネジ・ナットに交換するか、または新しい緩み止め接着剤を使って固定しなければなりません。
- 緩み止め機構付きネジ・ナットは、認定を受けた技士が交換する必要があります。

スポークの張り具合の確認

スポークに緩みや歪みがあってはなりません。

1. 緩んだスポークは認定を受けた技士が締めなければなりません。
2. 破損したスポークは認定を受けた技士が交換しなければなりません。

パーキングブレーキの確認

1. パーキングブレーキの位置が正しいことを確認します。ブレーキをかけたときにタイヤがブレーキシューによって数ミリへこめば、ブレーキは正しく設置されています。
2. 正しく設置されていない場合は、ブレーキを正しく調節するよう認定を受けた技士に依頼してください。

- 重要！**
- ・ 後輪を交換したり位置調節した後は、パーキングブレーキを再調整しなければなりません。

激しい衝突や打撃を受けた後の確認

- 重要！**
- ・ 車椅子は、激しい衝突や打撃によって生じる目に見えない損傷を負っていることがあります。
 - 激しい衝突や打撃を受けた後は、必ず認定を受けた技士が車椅子を確認するようにしてください。

タイヤチューブの修理および交換

1. 後輪を取ってタイヤチューブの空気を抜きます。
2. 自転車タイヤレバーを使ってタイヤのサイドウォール的一方をリムから持ち上げます。ドライバーなどの鋭利なものは、タイヤチューブが損傷する原因となりますので使用しないでください。
3. タイヤチューブをタイヤから引き出します。
4. タイヤチューブを自転車修理キットで修理するか、または必要であればチューブを交換します。
5. チューブが丸くなるまで少し空気を入れます。
6. バルブをリムのバルブ穴に挿入し、タイヤの内部にチューブを入れます（チューブはひだがないようにタイヤ周囲に沿って位置します）。
7. タイヤのサイドウォールをリムの端から持ち上げます。バルブ付近から始め、自転車タイヤレバーを使用します。このとき全体を確認し、タイヤチューブがタイヤとリムの間に挟まらないようにします。
8. 最大使用圧力になるまでタイヤに空気を入れます。タイヤから空気が漏れていないか確認します。

予備部品

- i** いずれの予備部品も、Invacare指定のプロバイダーが提供できる場合があります。

8.4 点検整備電子版



- 注意！**
製品への損傷の危険性
- 化学薬品は使用しないでください。
 - バッテリーの扱いには注意してください。
 - 塩基性であれアルカリ性であれ、強力な溶剤は使用しないでください。
 - アクチュエーターおよびシステムが正常に作動することを確認してください。
 - 製品の寿命を延ばすには、可能な限り頻繁に主電源の電圧に接続する必要があります。少なくとも3か月ごとにバッテリーを充電することが推奨されています。
 - バッテリーの機能は少なくとも1年に1回テストします。

8.5 清掃と除菌

8.5.1 安全性全般について



- 注意！**
汚染の危険性
- 身を守るために注意を払い、適切な防護具をご使用ください。



- 重要！**
- 不正な液体や方法を使うと製品に危害が及んだり製品が損傷することがあります。
 - いずれの洗剤や消毒剤も、効果的で相互に互換性があり、清掃する材質を保護するものでなければなりません。
 - 腐食性液体（アルカリ、酸など）や研磨剤配合洗浄剤は絶対に使用しないでください。清掃の説明に特に記載がない場合は、食器用洗剤など通常の家庭用洗剤をお勧めします。
 - プラスチックの構造を変化させたり貼り付けられているラベルを溶かすような溶剤（セルロースシンナー、アセトンなど）は絶対に使用しないでください。
 - この製品を再び使用する前に、完全に乾いているか必ずご確認ください。

- i** 臨床現場や長期療養環境における清掃および消毒については、当該施設の手順に従ってください。

8.5.2 清掃の頻度



- 重要！**
- 定期的に清掃および除菌をすることで操作が円滑になり、耐用年数が延び、汚染を防ぎます。
- 製品の清掃と除菌**
- 使用中は定期的に
 - 点検や修理を行う前後
 - 体液が付着したとき
 - 新しい使用者が使用する前

8.5.3 清掃

！ 重要！

泥、砂、海水はベアリングおよび鋼鉄製の部品を損傷します。表面が損傷すると、錆が発生することがあります。

- 車椅子を砂や海水に長時間さらさず、海岸に行った後は毎回洗浄してください。
- 車椅子が汚れたらできるだけすぐに湿らせた布で汚れを拭き取り、慎重に乾燥させます。

1. 取り付けられているオプション（取り付けに道具が必要でないもの）をすべて取り外してください。
2. それぞれの部品を布または柔らかいブラシ、通常の家庭用洗剤（pH=6~8）、ぬるま湯を使って拭きます。
3. ぬるま湯で部品をすすぎます。
4. 乾いた布で部品をしっかりと乾かします。

！ 塗装された金属表面には自動車ワックスやソフワックスを使い、擦り傷を取り除き光沢を取り戻します。

クッションの洗浄

クッションの洗浄については、座シート、クッション、バックレストカバーのラベルに記載されている説明をご覧ください。

！ 可能なら洗浄時にはフック・ループ式のストラップ（セルフグリップの部分）を覆い、糸くずや糸がフック式のベルトに溜まること、またそれによるクッション生地への損傷を最小限に抑えてください。

8.5.4 洗浄

1. 取り外し可能なカバーをすべて外し、洗濯機で洗います。各カバーの洗浄方法についての指示に従ってください。
2. クッション、アームレスト、パッド付き部品が固定されたヘッドレストまたはネックレスト、カーフパッドなど、すべてのパッド付き部品を外して別々に清掃します。

！ パッド付き部品を高圧洗浄機や散水ホースで清掃することはできません。

3. 車椅子の車台に洗剤（洗車用のワックス入り洗剤など）を噴霧し、洗剤が汚れに浸透するまで放置します。
4. 洗剤を洗い落とすときには、汚れの程度により高圧洗浄機または通常の散水ホースを使用します。留め具/固定具に直接散水しないでください。車椅子洗浄機を使用する場合は、必ず 60 °C 以下のお湯を使います。

！ テーブルを清掃する際は、水と軟石鹼のみ使用してください。

5. 車椅子を乾燥庫に入れます。フレームパイプの端部、継手など、水が溜まった部分は取り外し、水気を拭き取ります。車椅子洗浄機を使用する場合は、圧縮空気を吹き付けて乾燥させます。

高伸縮性ポリウレタン (PU) でコーティングされた布

布地についた薄い汚れは、湿らせた柔らかい布と中性洗剤で中和させることができます。こびりついた大きな汚れを落とすには、布地をアルコールか代用テレピン油で拭いた後、お湯と中性洗剤で洗います。

布地は 60 °C 以下のお湯で洗うことができます。通常の洗剤を使用できます。

！ アームレストパッド、カーフパッド、ヘッドレストまたはネックレストなど、高伸縮性ポリウレタン (PU) でコーティングされた布のクッションが付いたすべての車椅子部品は、上記の指示に従って清掃する必要があります。

電子版

！ 重要！

- 電動バックレストまたはチルトの付いた車椅子は IPX6 に基づいて保護されています。つまり、ブラシと水で製品を洗浄することができます。水をかけることはできますが（庭用ホースなどから）、高圧水を電子システムに直接放水しないでください。
- 最大洗浄温度 20 °C。
- スチームクリーナーは使用しないでください。
- 洗浄する前に、コンセントにつながっていないことを確認します。
- 製品を洗浄するとき、相互接続されたケーブルはつないだままにします。
- アクチュエーターは、ピストンロッドのオイルが落ちないように、最も内側の位置に格納します。

8.5.5 除菌

試験を受けて認証された除菌剤を噴霧して拭くことで、車椅子の除菌を行えます。

！ ソフト洗浄で除菌洗浄剤 (EN1040 / EN1276 / EN1650 の基準に適合する殺菌剤) を噴霧して、製造元の指示に従ってください。

1. 手の届く表面全体を柔らかい布と通常の家庭用除菌剤でくまなく拭きます。
2. その後車椅子を空気乾燥させます。

9 使用後の処置

9.1 保管

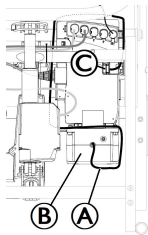
- ！ 重要！**
 製品の損傷の危険性
- 本製品を熱源の近くに保管しないでください。
 - 車椅子の上に他の物を保管しないでください。
 - 車椅子は、屋内の乾燥した場所に保管してください。
 - 温度制限については、11 技術データ (52 ページ) 章をご覧ください。

車椅子を長期間 (4 か月以上) 保管した場合は、8 点検整備 (45 ページ) 章に従って車椅子を点検する必要があります。

9.1.1 保存用電子版

短期的な保存

シートプレートの下のバッテリーパック **Ⓑ** を取り外さないでください。バッテリーケーブル **Ⓐ** を所定の位置に保ち、コントロールボックスからバッテリー電源 **Ⓒ** を切り離します。



長期的な保存

移動機器とバッテリーの保存

- 使用していなくてもバッテリーは自己放電します。移動機器を 2 週間以上保存する場合、コントロールボックスからバッテリー電源を切り離すことが最良の方法です。コントロールボックスからバッテリーパックを切り離してください。以下の短期的な保存を参照してください。どのケーブルを切り離したらよいか分からない場合は、正規販売店までご連絡ください。
- バッテリーは保存前に必ず完全に充電にしてください
- 移動機器を 4 週間以上保存する場合、バッテリーを 1 か月に 1 回点検し、損傷を防ぐため、必要に応じて (ゲージの読み値が半分になる前に) 再充電してください。

移動機器を使用する準備

- 使用していなくてもバッテリーは自己放電します。移動機器を 2 週間以上保管する場合、コントロールボックスからバッテリー電源を切り離すことが最良の方法です。移動機器を 2 週間以上保存する場合、コントロールボックスからバッテリー電源を切り離すことが最良の方法です。コントロールボックスからバッテリーパックを切り離してください。以下の短期的な保存を参照してください。どのケーブルを切り離したらよいか分からない場合は、正規販売店までご連絡ください。
- バッテリー電源をコントロールボックスに再度接続します。
- 使用前にバッテリーパックを充電する必要があります。

9.2 廃棄

環境に配慮するため、本製品が製品寿命を終えた場合には、リサイクル施設を通じてリサイクルしてください。

製品と構成部品を分解してください。さまざまな素材は分離できるため、個別にリサイクルできます。

使用済みの製品や梱包材を廃棄およびリサイクルする際は、各国の廃棄物処分に關する法律や規制に従う必要があります。詳しくは、お近くの廃棄物処理会社までお問い合わせください。

9.2.1 使い捨て電子版



警告！ 環境危険性

機器にはバッテリーが含まれています。本製品に含まれる物質は、法律に従わない不適切な場所への廃棄 (埋め立て) 時に環境を損なう可能性があります。

- バッテリーを通常のごみとして廃棄しないでください。
- バッテリーは適切なごみ処理場で処分する必要があります。返却が法律で義務付けられています。回収は無料です。
- 放電済みのバッテリーのみを廃棄するようにしてください。
- 廃棄する前に、リチウムバッテリーの端子を覆ってください。

9.3 再調整

この製品は再使用に適しています。新しいユーザーのためにこの製品を再調整するには、以下を行います。

- 点検
- 清掃と除菌
- 新しいユーザーへの適用

詳しくは 8 点検整備 (45 ページ) とこの製品のサービスマニュアルをご覧ください。

この製品とともに取扱説明書を必ず手渡してください。

何らかの損傷や誤動作が見つかった場合は、この製品を再使用しないでください。

10 トラブルシューティング

10.1 安全性について

日常的な使用、調節、または車椅子の需要の変化により故障することがあります。故障の確認と修理のしかたについては次の表をご覧ください。

資格を持つ技士が行わなければならない内容もあります。該当するものにはその旨が記載されています。

資格を持つ技士がすべての調整を行うことをお勧めします。

**注意!**

- 操作性の著しい変化やその他の故障に気がついたら、直ちに車椅子の使用をやめ、プロバイダーまでご連絡ください。

10.2 故障の確認と修理

故障	考えられる原因	措置
車椅子がまっすぐに走行しない	どちらかの後輪タイヤの空気圧が適切でない	タイヤの空気圧を修正する → 11.4 タイヤ (53 ページ)
	スポークが1本以上折れている	損傷しているスポークを交換する → 資格を持つ技士
	スポークが均等に締められていない	緩んだスポークを締める → 資格を持つ技士
	キャストベアリングが汚れている、または損傷している	ベアリングを清掃するまたはキャストを交換する、 → 資格を持つ技士
車椅子が後方に倒れやすい	後輪が装着された位置が前すぎる	後輪をより後方に装着する、 → 資格を持つ技士
	背部の角度が大きすぎる	バックレストの角度を小さくする → 資格を持つ技士
	座シートの角度が大きすぎる	フロントフォーク上にキャストを上向きに取り付ける、 → 資格を持つ技士
ブレーキの握りが不良または非対称的である	どちらかまたは両方の後輪タイヤの空気圧が適切でない	タイヤの空気圧を修正する → 11.4 タイヤ (53 ページ)
	ブレーキの設定が適切でない	ブレーキの設定を修正する → 資格を持つ技士
転がり抵抗がとて高い	後輪タイヤの空気圧が低すぎる	タイヤの空気圧を修正する → 11.4 タイヤ (53 ページ)
	後輪が平行でない	後輪が平行にする → 資格を持つ技士
スピードを出すとキャストがぐらつく	キャストベアリングブロックの張り具合が弱い	ベアリングブロック軸のナットを少し締める、 → 資格を持つ技士
	キャストがすり減ってつるつるしている	キャストを変更する → 資格を持つ技士
キャストが固いまたは動かない	ベアリングが汚れている、または故障している	ベアリングを清掃するまたはキャストを交換する、 → 資格を持つ技士


10.3 故障の確認と修理、電子版

故障	考えられる原因	措置
傾斜機能やリクライニングが動かない	ストロークの終わりに達した	逆のボタンを操作する
	バッテリーが充電されない	バッテリーを充電する
	手動制御が接続されていない	手動接続が制御ユニットに正常に接続されていることを確認する
	手動制御に欠陥がある	認定を受けた技士に連絡して手動制御を交換する
	制御ユニットに欠陥がある	認定を受けた技士に連絡して制御ユニットを交換する
	ケーブルが絡まったか挟まれた	認定を受けた技士に連絡してケーブルを交換する
	手動制御機能がロックされている	認定を受けた技士に連絡して手動制御を解除する

故障	考えられる原因	措置
手動制御装置を使用すると音が鳴る	バッテリーレベルが低くなっている	バッテリーを充電する
	車椅子が低温 (−10 °C 以下) の屋外で使用されていた	車椅子を暖める。コントロールボックスを再起動し、「バッテリー充電」の章の指示に従う。

11 技術データ

11.1 一般事項

-  Rea Dahlia の場合、キャスターの車輪 100 ~ 150 mm は屋内専用です。


11.2 寸法および重量

すべての寸法および重量の仕様は、標準設定の様々な車椅子に当てはまります。寸法および重量 (ISO 7176-1/5/7 に基づく) は、設定によって異なる可能性があります。

- ！ 重要！**
- 一部の構成では、使用できる状態時の全体的な寸法が認定された限界を超え、緊急脱出ルートへのアクセスができないことがあります。
 - 一部の構成では、車椅子がEU圏内で電車移動する際の推奨寸法を超える場合があります。

	DAHLIA 30°		DAHLIA 45°	
	515 mm (20")/560mm (22")/600 mm (24")	405 mm (16")	515 mm (20")/560mm (22")/600 mm (24")	405 mm (16")
使用者最大体重	135 kg	135 kg	135 kg	135 kg
全長 (レッグレストを含む)	1010 ~ 1140 mm	1010 ~ 1140 mm	1010 ~ 1180 mm	1010 ~ 1160 mm
全幅	550 ~ 700 mm	550 ~ 700 mm	550 ~ 700 mm	550 ~ 700 mm
收容幅	570 mm ~	560 mm ~	580 mm ~	555 mm ~
收容高さ	600 mm ~	700 mm ~	570 mm ~	710 mm ~
收容長	785 mm	890 mm	825 mm	940 mm
総重量	>35 kg *	>35 kg *	>35 kg *	>35 kg *
最も重い部品の重量	21 kg	25 kg	21 kg	25 kg
下り坂での静的安定性	11° - 15°	11° - 15°	11° - 15°	11° - 15°
上り坂での静的安定性	3° - 15°	3° - 15°	3° - 15°	3° - 15°
横向きでの静的安定性	15° - 22°	15° - 22°	15° - 22°	15° - 22°
シート面角度	-1° - +30°	-1° - +30°	-1° - +45°	-1° - +45°
有効なシートの深さ	430 ~ 500 mm	430 ~ 500 mm	430 ~ 500 mm	430 ~ 500 mm
有効なシート幅	390 ~ 540 mm	390 ~ 540 mm	390 ~ 540 mm	390 ~ 540 mm
前部/後部端までのシート表面	20": 330 ~ 500 mm 22": 350 ~ 430 mm 24": 430 ~ 450 mm	330 ~ 480 mm	20": 350 ~ 430 mm 22": 380 ~ 450 mm 24": 450 ~ 480 mm	350 ~ 500 mm
バックレストの角度	0° - +30°	0° - +30°	0° - +30°	0° - +30°
バックレスト高	500 ~ 800 mm	500 ~ 800 mm	500 ~ 800 mm	500 ~ 800 mm
フットレストからシートまでの距離	362 ~ 627 mm	362 ~ 627 mm	362 ~ 627 mm	362 ~ 627 mm
足とシート表面の角度	105° - 180°	105° - 180°	105° - 180°	105° - 180°

アームレストから座シートまでの高さ	250 ~ 320 mm	250 ~ 320 mm	250 ~ 320 mm	250 ~ 320 mm
	DAHLIA 30°		DAHLIA 45°	
	515 mm (20")/560mm (22")/600 mm (24")	405 mm (16")	515 mm (20")/560mm (22")/600 mm (24")	405 mm (16")
アームレスト構造の位置 (前)	465 ~ 550 mm	465 ~ 550 mm	465 ~ 550 mm	465 ~ 550 mm
ハンドリム直径	445 ~ 535 mm	N/A	445 ~ 535 mm	N/A
軸の位置 (水平方向)	-5.7/-94.3 mm	-5.7/-94.3 mm	-5.7/-94.3 mm	-5.7/-94.3 mm
最小回転半径	755 mm	755 mm	755 mm	755 mm
レッグレストを除いた全長	830 ~ 960 mm	830 ~ 960 mm	830 ~ 1000 mm	830 ~ 980 mm
全高	825 ~ 1250 mm	825 ~ 1250 mm	825 ~ 1250 mm	825 ~ 1250 mm
ピボット幅	最低 1280 mm	最低 1280 mm	最低 1280 mm	最低 1280 mm
ブレーキ使用時の最大スロープ角度	7°	7°	7°	7°

 *シート幅 39 cm、最軽量構成時の総重量。「Laguna 2」バックプレートおよびクッション付き。電子システムを搭載している場合、重量は 4.2 kg になります。

	515 mm (20")	560 mm (22")	600 mm (24")	405 mm (16")
車輪の幅	35 mm (1 3/8")	25 mm (1") ~ 35 mm (1 3/8")	25 mm (1") ~ 35 mm (1 3/8")	45 mm (1 3/4")
車輪の傾き	0° +/- 1° (車椅子に負荷がかかっていない状態)			

11.3 取り外し可能部品の最大重量

取り外し可能部品の最大重量	
部品:	最大体重:
カーフパッドおよびフットレスト付き角度調節可能レッグレスト	3,2 kg
アームレスト	2,0 kg
ハンドリムおよびスポークガード付き後輪、600 mm (24")、硬質	2,5 kg
ヘッドレスト/ネックレスト/頭部側面サポート	1,4 kg
体幹サポート	0,8 kg
バックレストクッション	2,0 kg
シートクッション	1,9 kg
テーブル	3,9 kg


11.4 タイヤ


理想的な圧力はタイヤの種類によって異なります:

以下の例は指標です。以下のリストと異なるタイヤの場合はタイヤの側面を確認してください。最大圧力はタイヤ側面に記載されています。

タイヤ	最大空気圧		
空気式プロファイルタイヤ: 515 mm (20")、560 mm (22")、 610 mm (24")	4.5 bar	450 kPa	65 psi
空気式低プロファイルタイヤ: 515 mm (20")、560 mm (22")、 610 mm (24")	7.5 bar	750 kPa	110 psi
ソリッドタイヤ: 405 mm (16")、560 mm (22")、 610 mm (24")	-	-	-

タイヤ	最大空気圧		
ソリッドタイヤ: 100 mm (4"); 125 mm (5") " 140 mm (5" 1/2); 150 mm (6")、 200 mm (8")	-	-	-
空気式タイヤ: 200 mm (8")	2.5 bar	250 kPa	36 psi


 タイヤのサイズは、タイヤの側面に記載されています。適切なタイヤへのタイヤ交換は、資格を持つ技士が行わなければなりません。

 タイヤがパンクした際は、自転車修理店、自転車店などの適切な店舗に相談し、熟練した作業員にチューブの交換を依頼してください。




注意!


- 走行の快適さを保ち、ブレーキの効率と車椅子の容易な推進力を維持するため、タイヤ空気圧を両方の車輪で均等にする必要があります。

 上記のタイヤの互換性は、車椅子の構成およびモデル、またはそのどちらかによって異なります。

11.5 材質


車台、バックレストパイプ	粉でコーティングしたスチール
ハンドグリップ、ブレーキハンドル、フットプレート、ほとんどのオプションに使われるプラスチック部品	部品のマークに応じた熱可塑性プラスチック (PA、PE、PP、ABS、TPE など)
クッション (座シートとバックレスト)	フォーム PUR およびポリエステル、ポリウレタンでコーティングされた布およびフラシ天
テーブル	ABS
シートプレート	コーティングされた樺のベニヤ板
その他の金属部品	亜鉛合金、アルミ合金およびスチール
ネジ、ワッシャー、ナット	耐食スチール

 すべての材質は腐食を防止するために使用されています。弊社は REACH に準拠する素材と構成部品のみを使用しています。

 盗難および金属探知システム：まれに車椅子の材質に盗難および金属探知システムが反応することがあります。

11.6 環境状態

	保管と輸送	使用
温度	-20 °C ~ 40 °C	-5 °C ~ 40 °C
相対湿度	30 °C で 20 % ~ 90 %。結露のないこと	
大気圧	800 hPa ~ 1060 hPa	



 車椅子が低温で保管されていた場合、使用条件に合致するよう使用前に調整する必要があります。


11.7 環境状態電子版

	保管と輸送	使用
温度	-10 °C ~ 50 °C	0 °C ~ 40 °C
相対湿度	20 % ~ 90 %。結露がないこと	
大気圧	860 hPa ~ 1060 hPa	

11.8 電子システム — 電動チルトおよびバックレスト搭載モデル

電圧供給	100 ~ 240 V の U、AC、50/60 Hz (AC = 交流)、DC 24 V (DC = 直流)
最大入力電流	最大 5 アンペアの I (バッテリー = 最大 1.3 アンペア)

断続的 (定期的なモーター操作)	10 % 2 分オン / 18 分オフ
保護クラス 	CLASS II 機器
	IEC60601-1 に基づいて感電防止の指定条件に準拠した適用パーツです。
保護の程度	制御ユニット、外部電力供給、モーター、手動制御は IPx6 に基づいて保護されています。 正しい IP クラスについてはそれぞれの電子機器のラベルを参照してください。最も低い IP 分類が、システム全体の分類を決定します。 IPx6- システムはあらゆる方向からの放水から保護されています (高圧水は非対応)。

 詳しくは、Invacare の正規販売店までお問い合わせください。

11.9 電磁準拠 (EMC)

一般事項

電子機器を搭載した製品は、この取扱説明書に記載された EMC 情報に基づいて設置および使用する必要があります。



警告!

この製品は、携帯およびモバイル通信機器の影響を受ける可能性があります。

この製品は、電磁干渉にさらされた場合には、非意図的に作動することはありません。

- 作動した場合、製品の使用をただちに停止して、認定を受けた技士に確認してもらいます。

本製品は試験済みで、クラス B 機器用の IEC 60601-1-2 に指定された EMC 制限に準拠しています。



この製品のエミッションは極めて低いため、他の機器に干渉することはないでしょう。

とはいえ、近くの機器で不可解な挙動が見られる場合、すぐさまこの製品を停止して、その機器を観察します。

- 他の機器で何も生じていない場合、この製品が問題の原因ではありません。
- 他の機器で不可解な動作が見られる場合、この製品が問題の原因です。別の場所に移動するか、機器との距離を置くことによって、問題を解決します。

Invacare distributors

Sverige:

Invacare AB
Fagerstagatan 9
S-163 53 Spånga
Tel: (46) (0)8 761 70 90
Fax: (46) (0)8 761 81 08
sweden@invacare.com
www.invacare.se



Invacare France Operations SAS
Route de St Roch
F-37230 Fondettes
France

1587499-L 2021-10-08



Making Life's Experiences Possible®



Yes, you can.®